取扱マニュアルNO
ALV-5

[アルミバンシリーズ]

Alumi Van

取扱説明書(ドライ・冷凍・冷蔵)

●ご使用の前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

●取扱説明書は必ず車の中に大切に保管してください。

●本車両を譲られる場合、つぎの使用者のために本取扱説明書を必ず車両と共にお渡しください。

●冷凍機の取扱いについては、冷凍機メーカー発行の取扱説明書(別冊)をお読みください。

●トラックシャシの一般的な取扱いについては、シャシメーカー発行の取扱説明書(別冊)をお読みください。

PABCO

はじめに

このたびはパブコの「アルミバン」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
この取扱説明書は「アルミバン」に関する各部の正しい取扱い方法と点検・手入れ等について説明してあります。なお、仕様・オプションなどの違いにより内容が一部異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

○取扱説明書は必ずお読みください。

ご使用になる前によくお読みください。また、弊社製テールゲートリフター装備車については下記の取扱説明書も併せてお読みください。

- ●コンビリフト付の場合「コンビリフト取扱説明書」別冊
- ●すいちょくリフト付の場合「すいちょくリフト取扱説明書」別冊
- ●かくのうリフト付の場合「かくのうリフト取扱説明書」別冊

○正しい取扱い方について

万一、取扱いを誤ると故障や事故の原因になります。
本書に従った正しい取扱いで安全作業につとめてください。
本書記載の使用方法及び点検・手入れを守らない場合は、保証期間中であっても保証の適用外となりますので十分ご注意ください。

○使用目的について

「アルミバン」は、荷物室で荷物を運ぶ目的で作られたものです。この目的以外の使用を禁止します。また、機能維持のため改造変更を禁じます。もし必要が生じた場合は、販売店または弊社迄ご連絡ください。
独自の改造により生じた故障、事故などについては一切責任を負いません。

警告サインについて

本書及び製品本体に貼付した警告ラベルには、次のマークを使用しています。
これらのマークのついた項目ならびに警告ラベルは、安全上特に重要なものや参考にして頂きたい情報ですのでよくお読みください。

⚠ 危険	：死亡事故または重傷に至る切迫した危険
⚠ 警告	：死亡事故または重傷を負う可能性のある危険
⚠ 注意	：軽傷及び物的損傷の可能性のある危険
🔍 参考	：知っておくと得な情報、誤りやすいミスに関する注意

※仕様の変更及びお客様の個別仕様により、本書の内容と一致しない場合がございますのであらかじめご了承ください。

目　次

1．各部の名称 1

2．安全にお使いいただくために 3

2．1　取扱い上の禁止事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2．2　取扱い上の注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3．リヤドアの開閉操作 16

3．1　2枚観音ドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
3．2　3枚（4枚）観音ドア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3．3　はね上げドア+テールゲートリフター（オプション）・・・・・・・・・・・・・・19
3．4　シャッタードア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
3．5　アオリ+シャッタードア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

4．サイドドアの開閉操作 23

4．1　片開きドア・観音ドア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
4．2　スライド式ドア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
4．3　ワンタッチスライドドア（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

5．緊締装置について 28

5．1　ラッシングレール（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
5．2　ラッシングベルト（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
5．3　ラッシングビーム（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
5．4　フック（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

6．荷役省力装置について 30

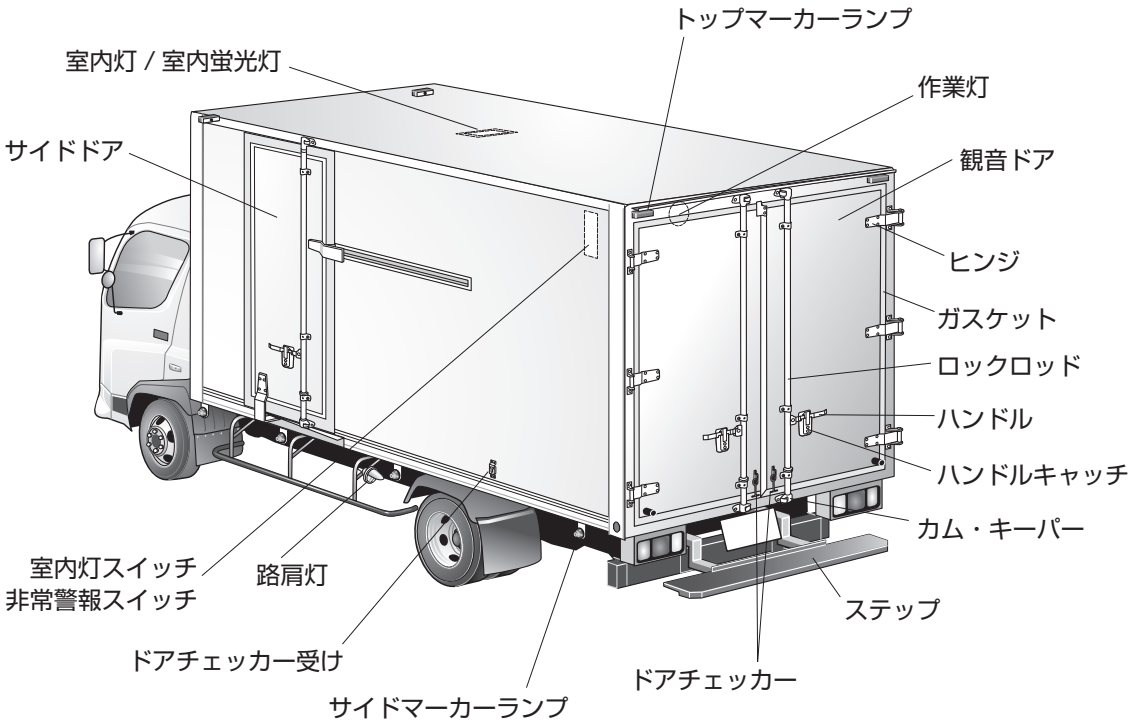
6．1　手動式床搬送装置（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
6．2　テールゲートリフター（オプション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

7．電装品について 32

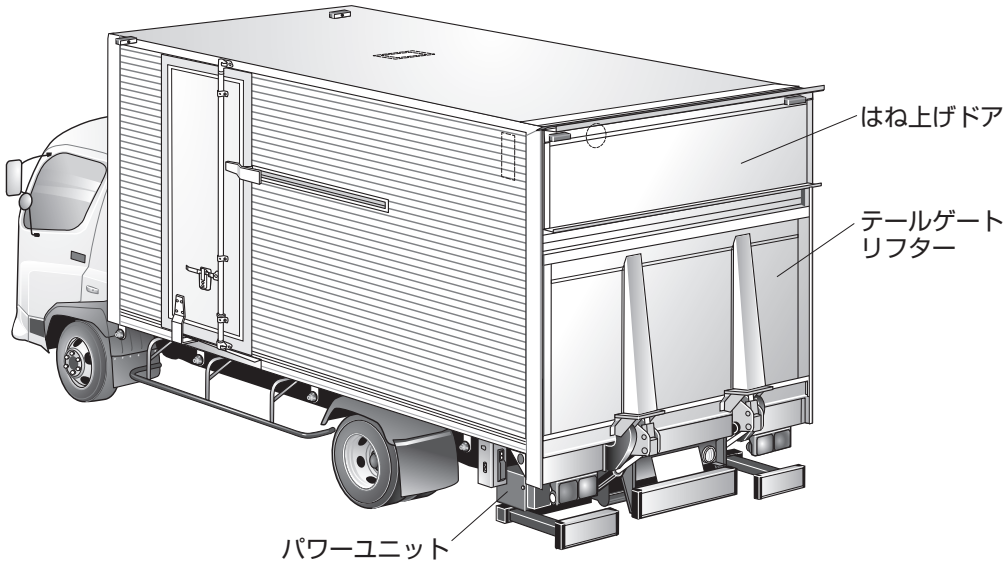
7．1　ランプ類 ・・・

1．各部の名称

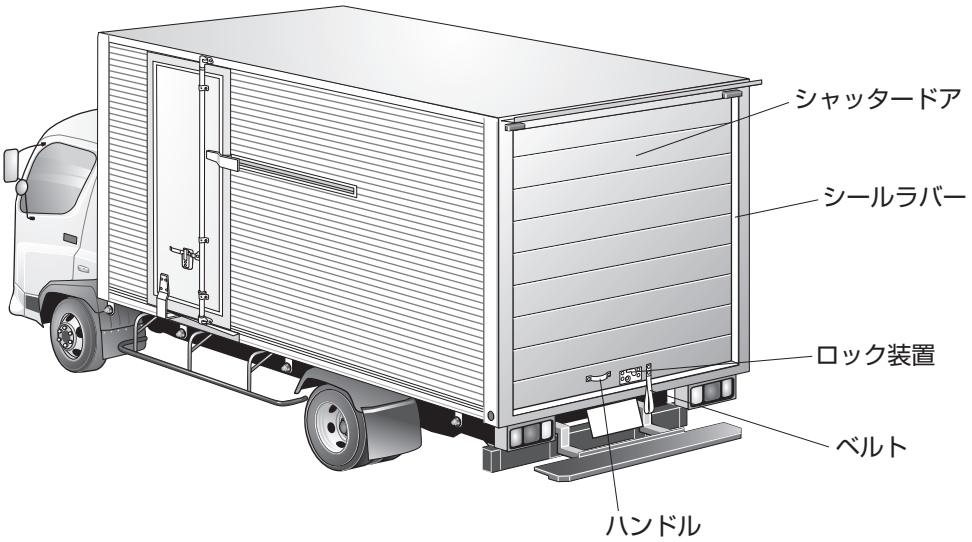
観音ドア仕様



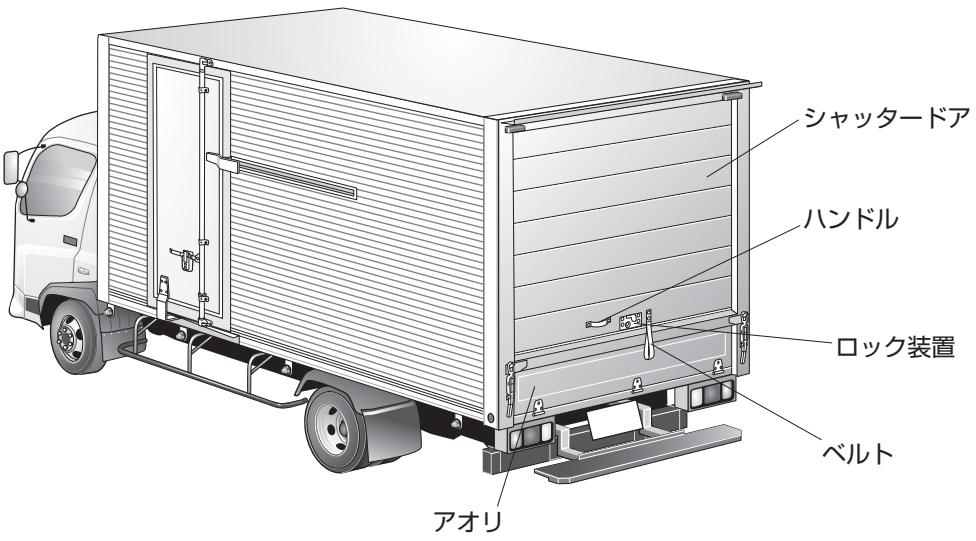
はね上げドア＋テールゲートリフター仕様



シャッタードア仕様



シャッタードア＋アオリ仕様

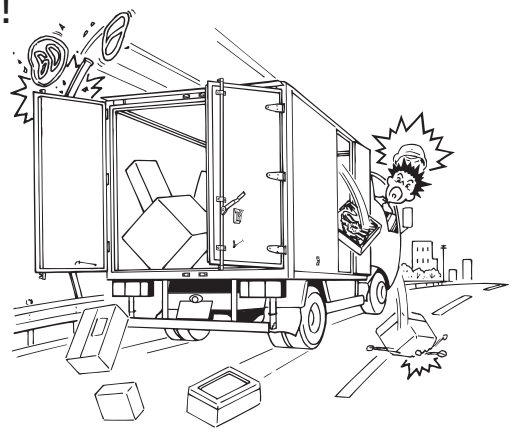


2．安全にお使いいただくために

2．1　取扱い上の禁止事項

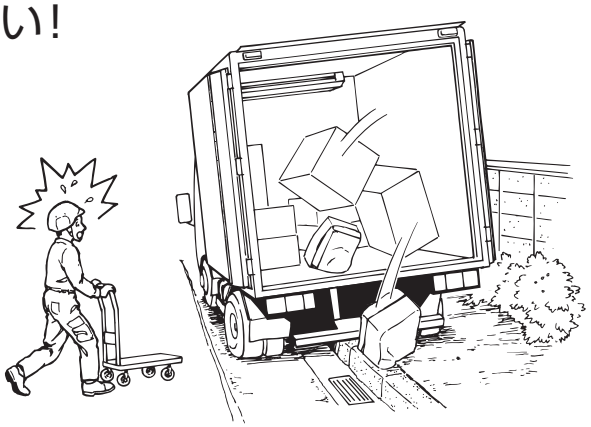
⚠ 危険　リヤドア、サイドドアを開いたまま走行してはいけない!

●ドアを開いたまま走行しないでください。開いたまま走行すると、ドアを損傷させる原因となるばかりか、荷物が落ちたり、通行人にドアが当たったり、事故を発生させる原因ともなり大変危険です。



⚠ 警告　不整地・傾斜地での荷物の積み降ろしをしてはいけない!

●不整地・傾斜地での荷物の積み降ろしはしないでください。荷物が崩れ落ちる危険があります。



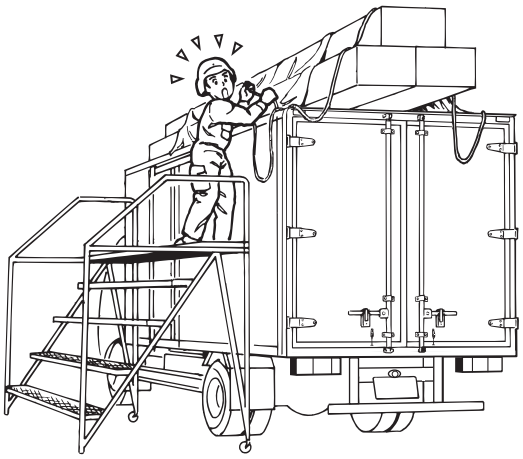
⚠ 警告　シャッタードアの下に物が置いてある場合は閉めてはいけない！

●物が置いてある状態でシャッターを閉めるとシャッターの破損や、荷物を損傷させる恐れがあります。



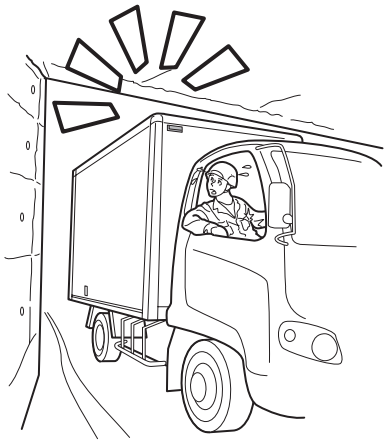
⚠ 警告　屋根に乗ったり、荷物を積まないで!

●屋根の上には、絶対に乗らないでください。
転落により、重大な傷害を負う恐れがあります。
●屋根に荷物を積まないでください。
荷物を積む構造にはなっていません。



⚠ 警告　キャブとボデーの段差に注意！

●車両の全高及び全幅を確認し、トンネルや陸橋等との接触に注意してください。
ボデーがぶつかると大変危険です。

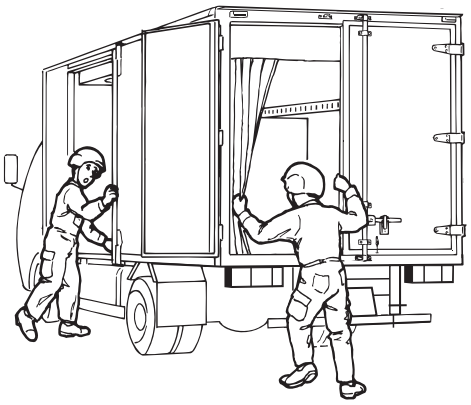


⚠ 警告　荷室内に人を乗せて走行してはいけない!

●荷室内に人を乗せての走行は、絶対にしないでください。
車の発進・停止による転倒や荷崩れにより、重大な傷害を負う恐れがあります。

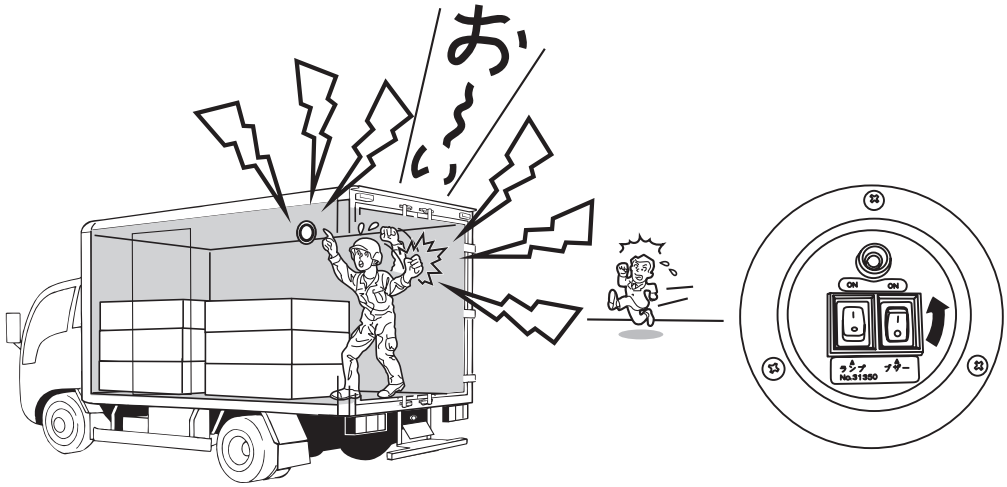


⚠ 警告　荷室内に人を閉じ込めないよう、細心の注意を！



●ドアを閉じる時は、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。
万一、閉じ込めてしまうと酸素欠乏・体温低下などを引き起こし大変危険です。

●荷室内に閉じ込められてしまった時は、大声を出したり、壁を叩いたりして外部へ知らせてください。
●非常警報装置付き車は、非常ブザースイッチを押して、外に知らせてください。
●非常ブザーが鳴っているのを聞いたら、すぐに外からドアを開けてください。



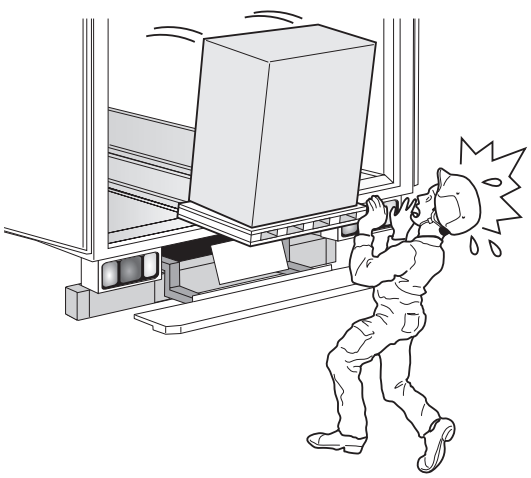
⚠ 警告　ドアを開けてすぐ荷室内に入ってはいけない！

●冷却剤にドライアイス等を使用している場合は、荷室内に炭酸ガスが充満しているので、ドアを開けてしばらく（約3分）たってから、荷室内に入ってください。



⚠ 警告　傾斜地での手動式床搬送装置の使用禁止！

●車両が傾斜した状態で搬送装置を操作すると、荷物の制御ができなくなり、転落など重大事故につながる恐れがあります。
●傾斜地等での荷役が避けられないときは、ロープ等で荷物を制御できる手段を併用してください。



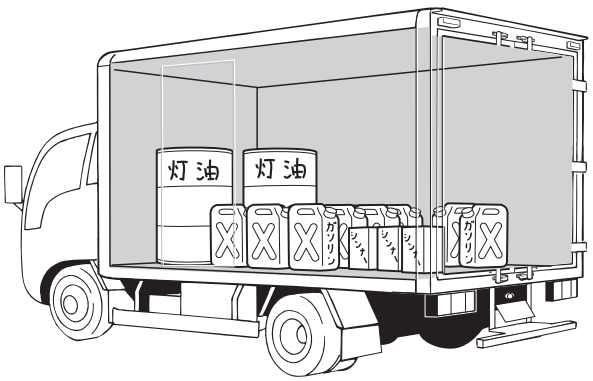
⚠ 警告　フォークリフトの乗り入れ禁止！

●フォークリフトを乗り入れないでください。床が抜け落ちる恐れがあります。



⚠ 警告　危険物を積まないで！

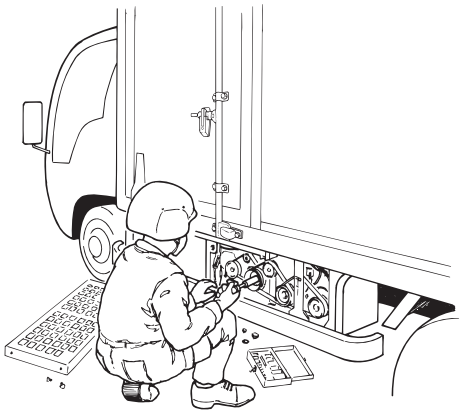
●荷室内に、揮発性、引火性のあるもの（ガソリン・シンナー等）を積まないでください。爆発や火災の原因となり、大変危険です。



⚠ 警告　冷凍ユニットを分解してはいけない！（冷凍機付き車）

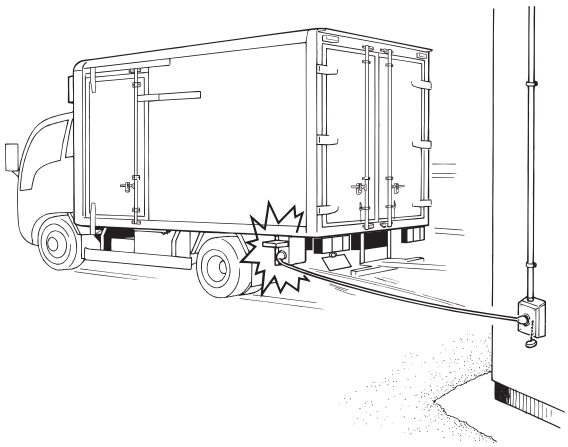
●修理技術者以外の人は、冷凍ユニットの分解・修理を絶対に行わないでください。冷凍ユニットが異常作動して、重大な傷害を負う恐れがあります。

※詳しくは、冷凍機メーカー発行の取扱説明書をご覧ください。



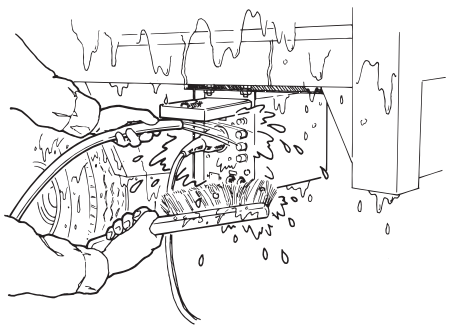
⚠ 警告　コードを接続したまま車両を移動してはいけない！（スタンバイ付き車）

●電源コードを接続したままでの車両の移動はしないでください。誤って移動した場合は、各コンセント及びソケット部、コード本体を必ず点検し、異常がないか確認してください。



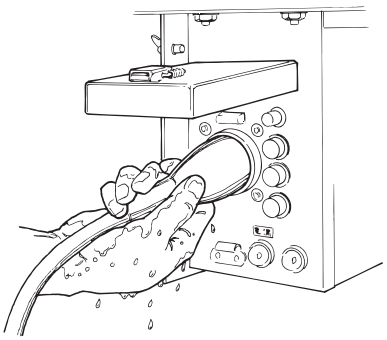
⚠ 警告　電装品に水をかけてはいけない！

●電装品に直接水をかけないでください。水がかかると、ショート・感電等の原因となります。



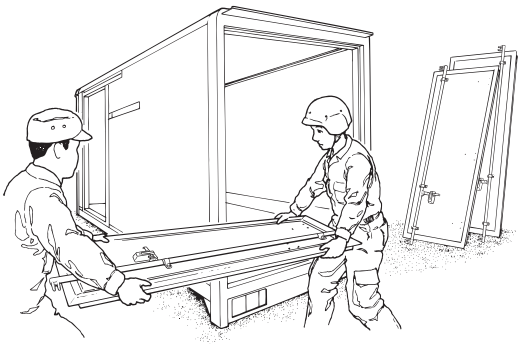
⚠ 警告　コード類にぬれた手で触れてはいけない！

●コードやスイッチ類にぬれた手で触れないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 警告　ボデーを廃棄する場合は、ドアを外さなくてはいけない！

●ボデーを廃棄する時は、必ずドアを外してください。ボデー内に人が入って事故が発生する恐れがあります。



⚠ 警告　違法改造をしないで！

●登録後の改造は、絶対に行わないでください。
車の性能や機能に適さない部品を取り付けると、故障や重大な事故の原因となります。

例
①灯具の増設や交換等
車幅灯・テールランプ・回転灯等

②届出のない2次工作
燃料タンク・床上張り・導風板
テールゲートリフター等



2.2　取扱い上の注意事項

⚠注意　荷物は正しく積んでください！

●荷物はバランスよく積載してください。
●最大積載量を超えた積載はしないでください。
　過積載は法律で禁止されているだけではなく、ボデーの各部に無理な力がかかり、
　ボデーの寿命を縮めたり思わぬ事故につながる恐れがあります。
●積荷は緊締装置などを使用して、しっかりと固定してください。



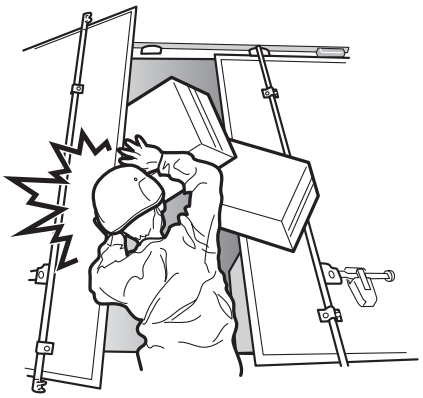
参考

●工具類、ラッシングベルト、ラッシングビーム等は積載物です。
　最大積載量を超えないように注意してください。

⚠注意　ドアの開閉時には、周囲の確認を！

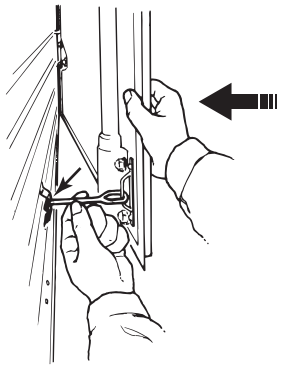
●ドアを開閉する時は、周囲の障害物や歩行者、他の交通車両に十分注意してください。
　確認せずに操作すると、ドアが損傷したり、思わぬ事故の原因となります。
●ドアを開ける時、荷崩れしていると危険です。
　ハンドルを回しロックを解除した時に、中から押されるような手応えがないことを確認
　してからドアを開いてください。



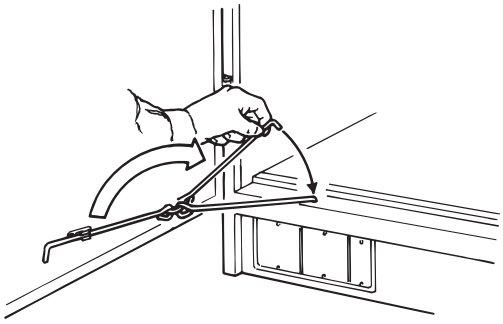


⚠注意　ドアを開けたら、必ず固定を！

●ドアを開けたら、必ずドアを固定してください。
正しく固定されていないと、ドアが風で急に閉じてはさまれたり、ケガをする恐れがあります。
●風の強い時（５m／秒以上）は危険ですので、必ずドアチェッカーにてドアを固定してください。



【ドアチェッカー】（標準）
●ドアをいっぱいに開いて、側面のチェッカー受けにドアチェッカーを掛けます。

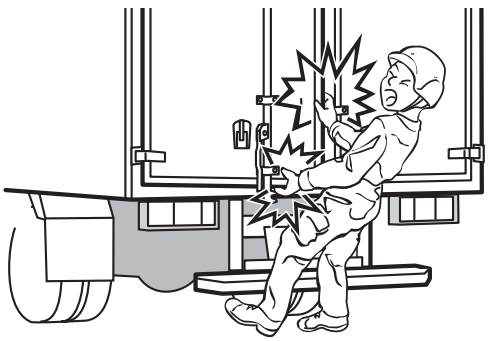


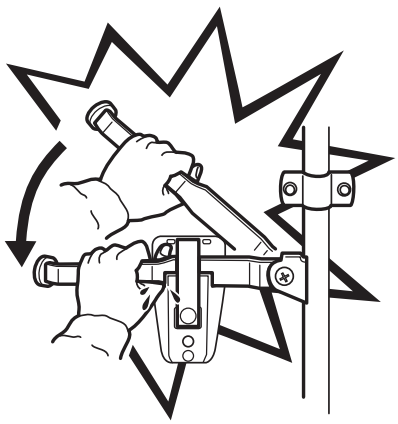
【90°ストッパー】（オプション）
●ドア内側のホルダーに収められている90°ストッパーを外し、ドアフレームの受け穴に差し込んで固定します。

※その他の 90°ストッパーについては、P. 39 を参照してください。

⚠注意　ドアやロックハンドル開閉時に、手のはさみ込みに注意！

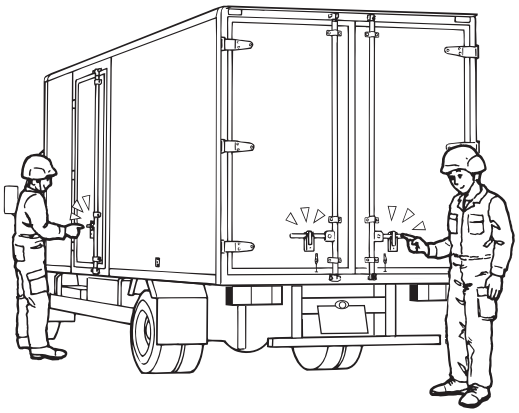
●ドアを閉めるときは、手や指をはさまないよう十分注意してください。
●ドアをロックするときは、ハンドルを手の平で押すようにしてハンドル受けに収めてください。
ハンドルを握って操作すると、手や指をはさむ恐れがあります。





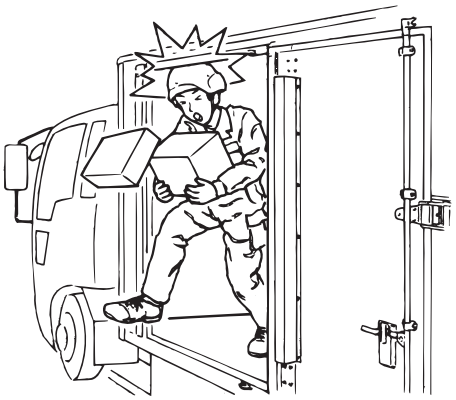
⚠注意　走行前には必ずロックの確認を！

●走行する前に、各ドア、工具箱、後部格納庫等が確実に閉まっていることを確認してください。



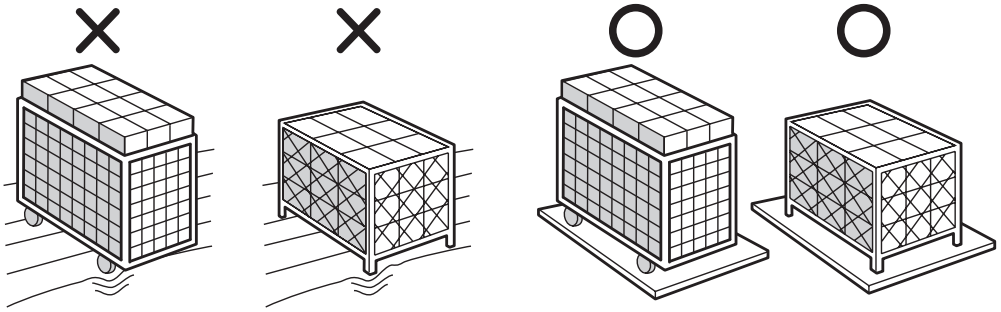
⚠注意　スライドドアをくぐる時、頭をぶつけないように！

●スライドドアをくぐる時は、アッパーレールが庫内に出ていますので頭をぶつけないように注意してください。



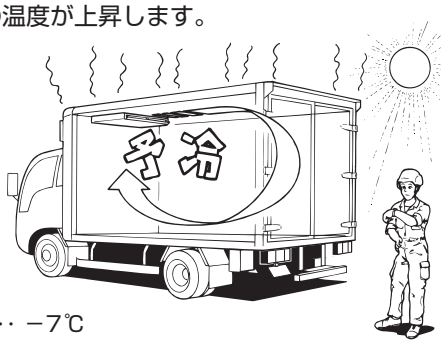
⚠注意　床に集中荷重をかけないで！

●４本足パレットやロール紙等、床との接地面積が小さく重い荷物は、積荷に応じた剛性のある面材を敷くなどして、局所集中荷重の分散を図ってください。



⚠注意　荷物を積む前に必ず予冷を！（冷凍機付き車）

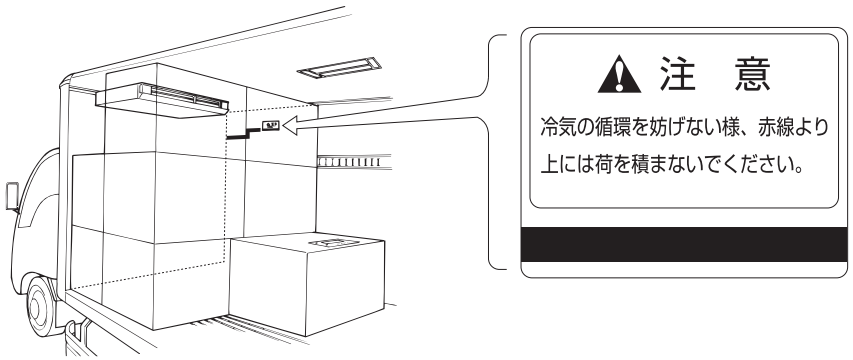
●荷室内の温度が高い状態のまま品物を積込むと、荷物の温度が上昇します。
積込む前には、必ず予冷を行ってください。
また、品物もあらかじめ適正温度に冷却し、
荷室内予冷終了後に積込みを行ってください。
●機械式冷却装置では、予冷に長時間を要するので、
早めに予冷を開始してください。



＜荷室内の予冷温度の目安＞
・フローズン帯の荷物（－18℃）を積込む場合 ‥‥‥‥‥‥‥‥ －7℃
・チルド帯の荷物（－5℃～＋5℃）を積込む場合 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 0℃
・クーリング帯の荷物（＋5℃～＋15℃）を積込む場合‥‥‥ ＋10℃

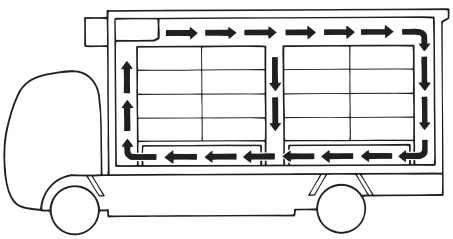
⚠注意　冷凍機吹き出し口より上には荷物を積まないで！（冷凍機付き車）

●冷気吹き出し口の高さより上には荷物を積まないでください。
特にエバポレータの吸込み口の周囲には、十分なスペースを確保してください。

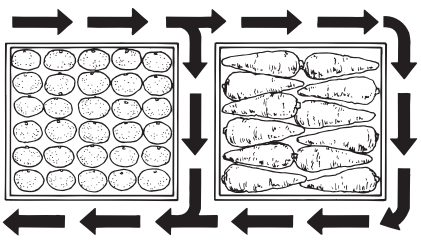


⚠注意　冷気がスムーズに循環するように隙間を確保して！（冷凍機付き車）

●積荷は冷気がスムーズに循環するよう、荷室内の前面、側面、天井、床面、後扉部に
十分な隙間をあけて積込んでください。



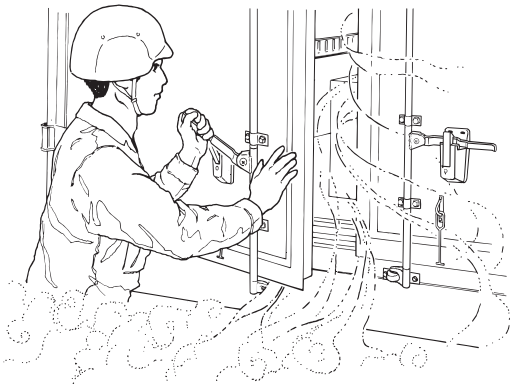
冷凍食品の場合は、荷物と荷物を
密着して積込む。



野菜、果物などの場合は荷と荷に
隙間を設けて積込む。

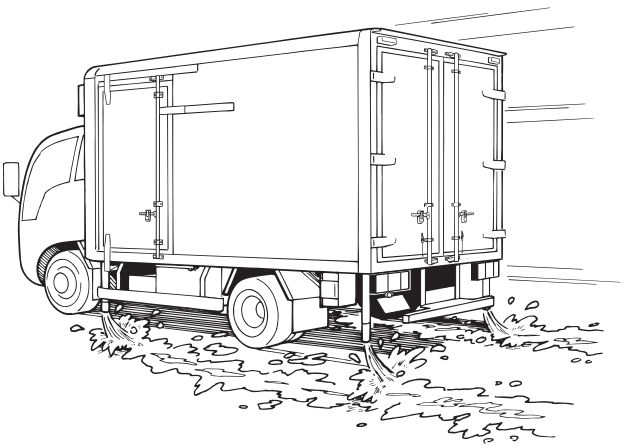
⚠ 注意　冷気が逃げないようにドアの開閉はすばやく行って！（冷凍機付き車）

●ドアの開閉はすばやく行い、積荷を長時間外気に触れさせないよう注意してください。



⚠ 注意　走行中はドレンホースからの「たれ流し」をしないで！（ドレンホース付き車）

●「たれ流し」を行った場合は、行政上の指導を受けることになります。



⚠ 注意　荷室内はすべり易いので気をつけて！（床上張り装備車）

●雪や水の付着したすべり易い靴での荷室内の作業は十分気をつけてください。特にステンレス等の平板を使用した床は、表面がすべり易くなっています。



⚠注意　駐停車時はできるだけ日陰を選んで！（冷凍機付き車）

●駐停車時はできるだけ日陰で、風通しの良い場所を選んでください。



⚠注意　荷室内はいつも清潔に！（冷凍機付き車・耐水内装仕様車）

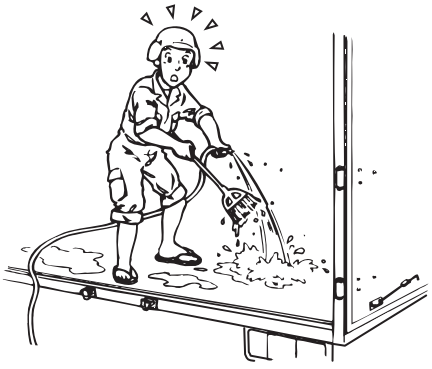
●食品衛生上、常に清潔にしておくことが必要です。冷凍機運転後は、水分等により汚れが付着しやすくなります。冷凍魚や肉類をバラ積みした後などは、残りカスが悪臭や細菌発生の原因となることがあります。

●洗浄時、防水処理を施してある箇所についてはシール剤等がはがれないよう注意してください。



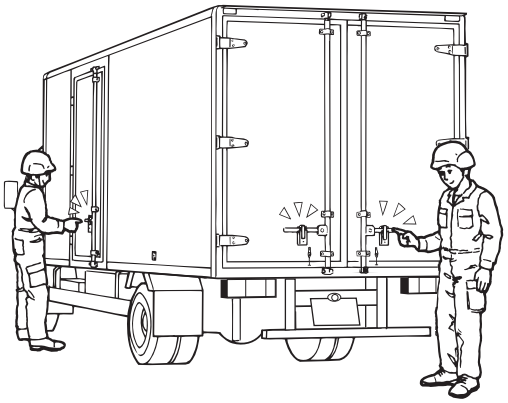
⚠注意　室内を水洗いしてはいけない！（ドライ・保冷仕様車）

●防水対策の行われていない室内を水洗いしたり、雪や氷の付着した荷物の積込みを行わないでください。
防水対策が行われていない室内を濡らすと、床板やその他の内張り材に反りや割れを発生させ、床下防水材に水がたまり、金属のサビや床板の腐りを発生させる原因となります。



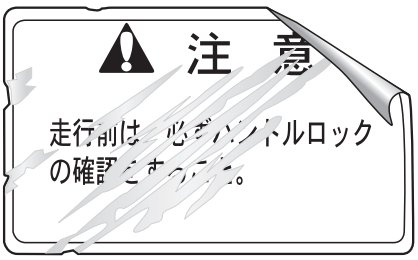
⚠注意　車から離れる時は必ず施錠を！

●車から離れる時は、盗難、いたずら防止、思わぬ事故を防ぐために、必ず全てのドアを施錠してください。



⚠注意　コーションプレートの整備！

●読みにくくなったり、はがれてしまったコーションプレートは、すみやかに新しいプレートと交換してください。

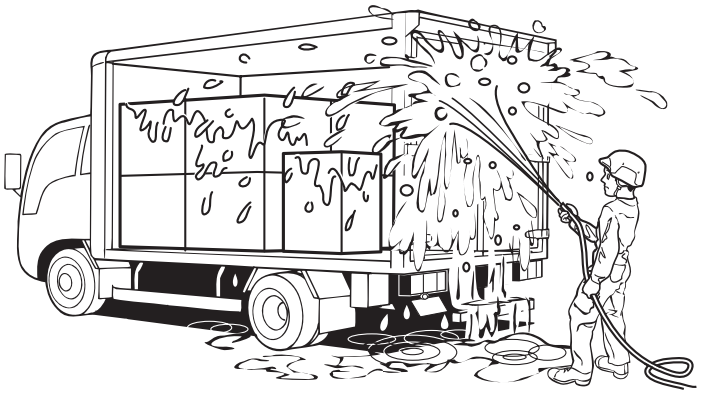


⚠注意　夏季炎天下での直射日光に注意！

●サンドイッチパネルタイプの外板及びドアパネルへの広範囲の暗色（黒色等）塗装及びマーキングは、夏季炎天下において表面温度の上昇によりパネルを変形させる恐れがありますので、駐車時には直射日光を遮る等の対応処置を行ってください。

⚠注意　洗車するときは！

●洗車は、荷物を積んでいないときに行ってください。水圧によってボデー内に水が浸入し、積荷が濡れる恐れがあります。



3．リヤドアの開閉操作

リヤドアを開閉する時は、下記事項をふまえ手順に従って操作してください。

⚠ 警告

●ドアを閉じる時は、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。
万一、閉じ込めてしまうと酸素欠乏・体温低下などを引き起こし大変危険です。

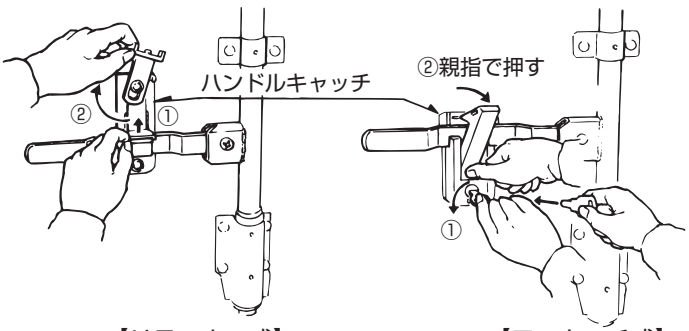
⚠ 注意

●風の強い時やドアを大きく開ける時は、周囲の障害物や歩行者、他の交通車両に十分注意してください。
●荷物を積んでいる時は、荷崩れしていないことを確認してからドアを開いてください。
●リヤドアを開けたら、必ずドアを固定してください。

3．1　2枚観音ドア

開け方

（1）ハンドルキャッチのロックを解除する。（①→②の順序）

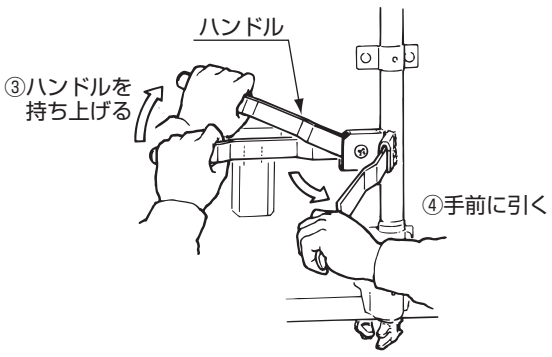


【リテーナー式】　【ワンタッチ式】

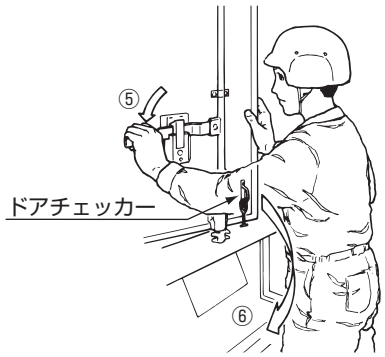
🔍 参考

●ワンタッチロックのツメにハンドルが乗った状態でフック下部を押すと、重い場合があります。ハンドルを持ち上げぎみにすると楽に操作できます。

（2）ハンドルを持ち上げて、手前に引いてドアを開ける。（③→④の順序）

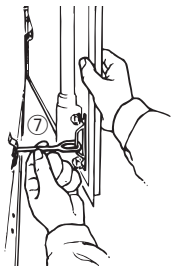


（3）ハンドルをキャッチに戻してからドアを開く。
ドアチェッカー又は、90˚ストッパーでドアを固定する。（⑤→⑥→⑦の順序）

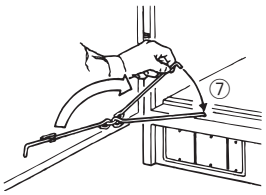


⚠ 注意

●ドアハンドルは必ずハンドルキャッチに戻してください。ドアを全開にした時、ハンドルで側面パネル等を損傷する恐れがあります。



【ドアチェッカー】（標準）
●ドアをいっぱいに開いて、側面のチェッカー受けにドアチェッカーを掛けます。



【90˚ストッパー】（オプション）
●ドア内側のホルダーに収められている90˚ストッパーを外し、ドアフレームの受け穴に差し込んで固定します。

※その他の 90˚ストッパーについては、P. 39 を参照してください。

⚠ 注意

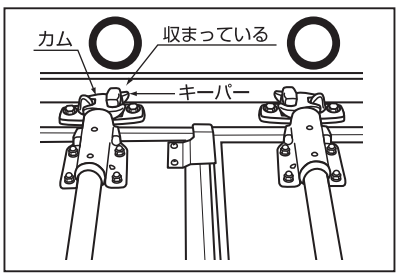
●ドアを開けたら必ずドアストッパーにてドアを固定してください。
●風の強いとき（5m / 秒以上）は危険ですので、90˚ストッパーを使用しないで、必ずドアチェッカーにてドアを固定してください。

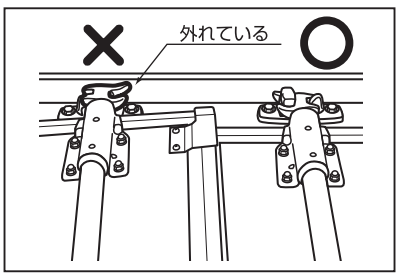
閉め方

開け方の逆手順で行います。

（1）ドアチェッカー又は、90˚ストッパーを外してドアを閉める。

（2）ハンドルを操作して、カムをキーパーに収める。

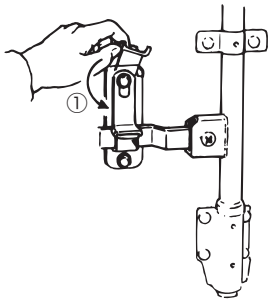




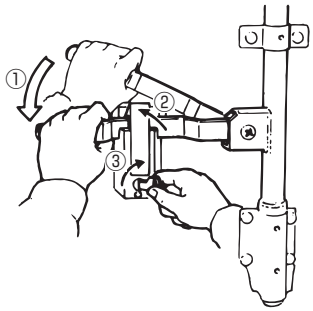
⚠ 注意

●カムがキーパーに確実に収まっていることを確認してください。外れている状態では、走行中にドアが開き事故を起こす恐れがあります。

（3）ハンドルをハンドルキャッチに戻して、ロックをする。（①→②→③の順序）



【リテーナー式】



【ワンタッチ式】

⚠ 警告

●ロックする前に荷室内に人がいないことを確認してください。
万一、閉じ込めてしまうと酸素欠乏・体温低下などを引き起こし大変危険です。

⚠ 注意

●車から離れる時は、盗難、いたずら防止、思わぬ事故を防ぐために、必ず全てのドアを施錠してください。

3.2　3枚（4枚）観音ドア（オプション）

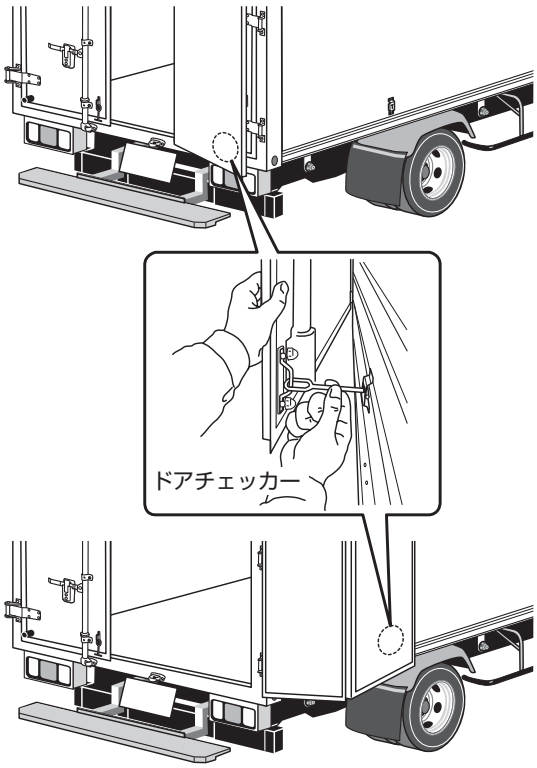
3枚観音の場合

（1）3枚観音ドアは右2枚連動で、
中央ドアから先に開く。
（2）閉めるときは、左ドアから先に
閉める。

4枚観音の場合

（1）4枚観音ドアは右左共2枚連動で、
左中央ドアから先に開く。
（2）閉めるときは､右ドアから先に閉める。

※ドアの開閉操作は、2枚観音ドア
P. 16 を参照してください。



3.3　はね上げドア＋テールゲートリフター（オプション）

開け方

（1）テールゲートを開き、テールゲートをフロアーと同じ高さにセットする。

（2）テールゲートの上に乗り、ベルトまたはハンドルを手前に引いてドアを開く。

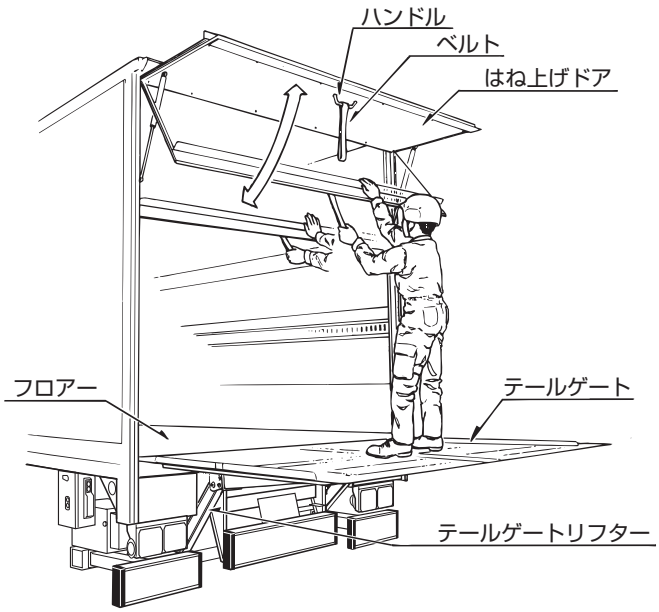
※テールゲートリフターの操作方法は、お買い上げリフトメーカー発行の
取扱説明書をご覧ください。

閉め方

開け方の逆手順で行います。

⚠ 注意

●ドアを閉めるときは、周囲に十分注意してください。
●閉じはじめは開く力（反力）が働きますが、途中から閉じる力に変わりますので、
必ず手を添えて静かに閉めてください。

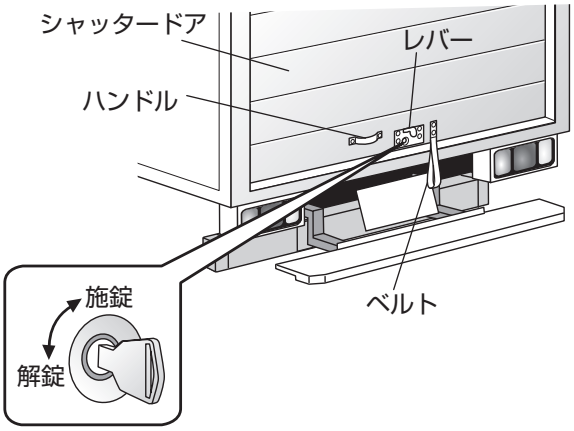


⚠ 注意

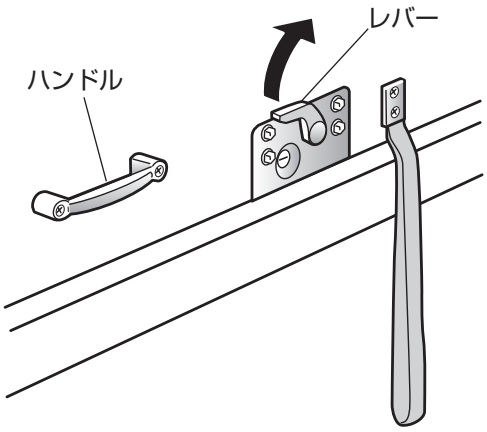
●後方および上方に、ドアを開くための十分なスペースがあることを確認して
ください。
●ドアが開きはじめると、途中からはね上がる力が作用します。ドアが完全に
開くまでベルトまたはハンドルを持って静かに開いてください。
●荷台への乗降りの際、ガスダンパーには絶対につかまらないでください。

3.4　シャッタードア（オプション）

開け方



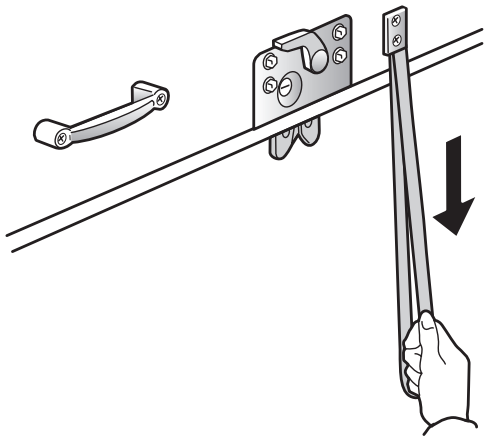
（1）カギを解錠する。



（2）ハンドルを下に押し、レバーを上げるとロックが解除するので、そのままハンドルを持ってドアを開く。

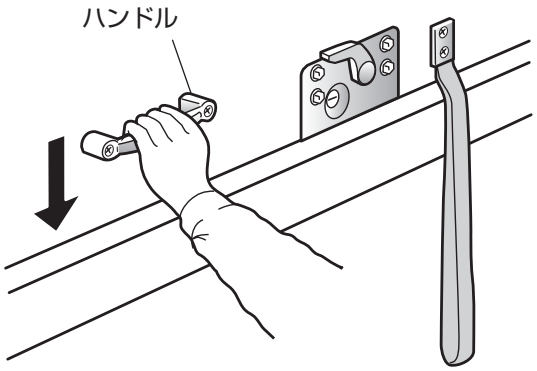
⚠ 注意

●開きはじめはドアを引き上げる力が強く作用しますので、ハンドルに手を添えてゆっくりと開いてください。



閉め方

（1）ベルトを持ち、ハンドルに手が届く位置までドアを引き下げる。



（2）ハンドルを持ち、ドアを完全に閉じると自動的にロックされる。

⚠ 警告

●ドアを閉めた後、ハンドルを持ち上げドアがロックされていることを確認してください。走行中にドアが開くと大変危険です。

⚠ 注意

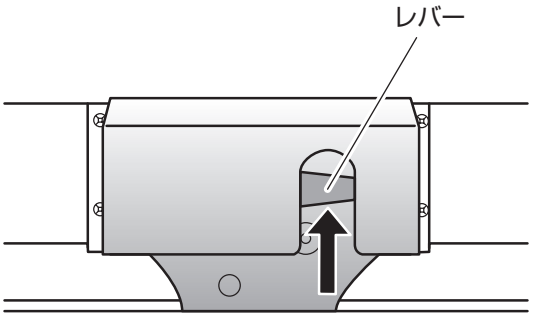
●車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。

参考

●ドアを閉じるとき、ベルトの挟みこみに注意してください。

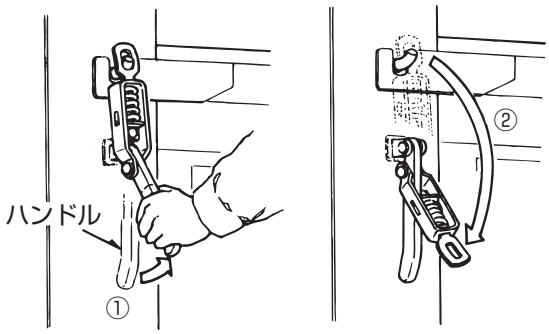
非常時の開け方

●万一、閉じ込められたときは、ドア内側の非常解除レバーを指で押し上げ、ロックを解除するとドアが開きます。



※シャッタードア操作の説明は、金剛産業製ワンタッチロック仕様です。他メーカー製やロック仕様が異なる場合には、シャッターメーカー発行の取扱説明書をご覧ください。

3.5　アオリ＋シャッタードア（オプション）

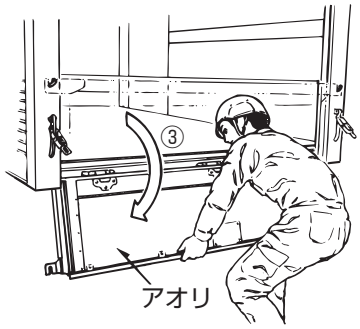


開け方

（1）シャッタードアを開く。

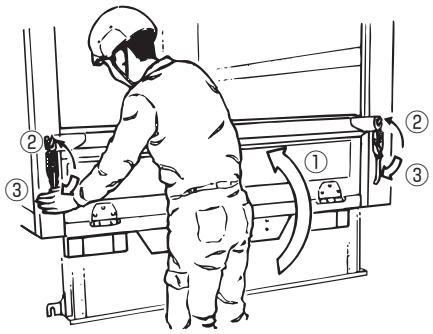
※シャッタードアの開け方は、P. 20 を参照してください。

（2）アオリのロックを解除して、アオリを開く。
（①→②→③の順序）



参考

- ●必ずシャッタードアを先に開いてからアオリを開いてください。
- ●アオリが完全に開くまで、必ず手を添えて静かに開いてください。

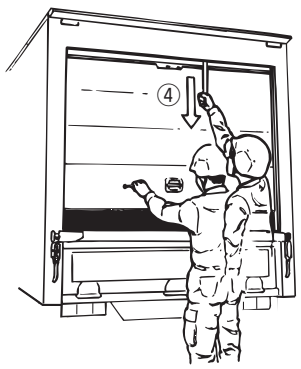


閉め方

（1）アオリを閉めてロックする。
（①→②→③の順序）

（2）シャッタードアを閉める。（④）

※シャッタードアの閉め方は、P. 20 を参照してください。



警告

- ●必ずアオリのロックをしてから、シャッタードアを閉めてください。アオリをロックしないで走行すると、シャッタードアとアオリの結合が外れ、各ドアが開く恐れがあり大変危険です。

4．サイドドアの開閉操作

サイドドアを開閉する時は、下記事項をふまえ手順に従って操作してください。

⚠ 警告

●ドアを閉じる時は、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。
万一、閉じ込めてしまうと酸素欠乏・体温低下などを引き起こし大変危険です。

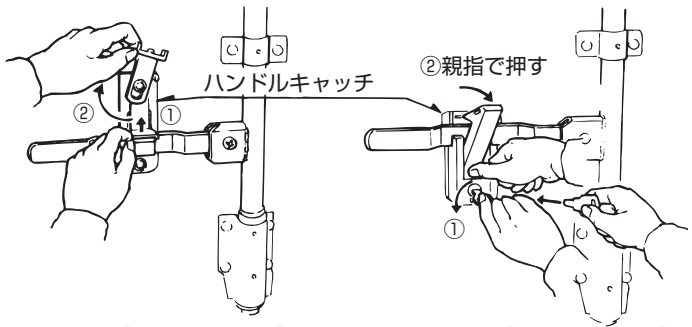
⚠ 注意

●風の強い時やドアを大きく開ける時は、周囲の障害物や歩行者、他の交通車両に十分注意してください。
●荷物を積んでいる時は、荷崩れしていないことを確認してからドアを開いてください。
●サイドドアを開けたら、必ずドアを固定してください。

4．1　片開きドア・観音ドア（オプション）

開け方

（1）ハンドルキャッチのロックを解除する。（①→②の順序）

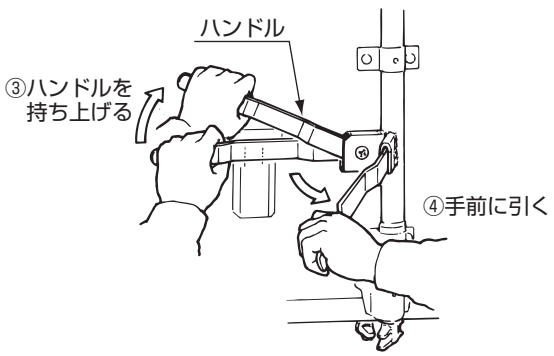


【リテーナー式】　【ワンタッチ式】

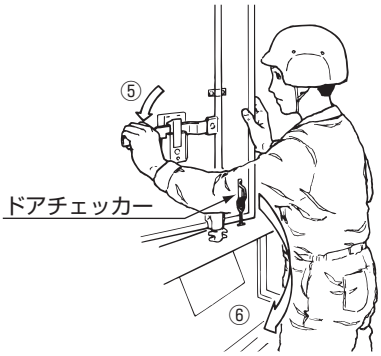
🔍 参考

●ワンタッチロックのツメにハンドルが乗った状態でフック下部を押すと、重い場合があります。ハンドルを持ち上げぎみにすると楽に操作できます。

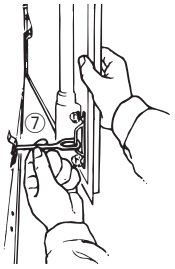
（2）ハンドルを持ち上げて、手前に引いてドアを開ける。（③→④の順序）



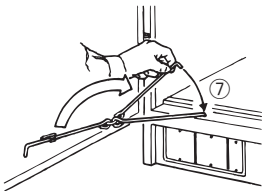
（3）ハンドルをキャッチに戻してからドアを開く。
ドアチェッカー又は、90˚ストッパーでドアを固定する。（⑤→⑥→⑦の順序）



⚠ 注意
- ドアハンドルは必ずハンドルキャッチに戻してください。ドアを全開にした時、ハンドルで側面パネル等を損傷する恐れがあります。



【ドアチェッカー】（標準）
- ドアをいっぱいに開いて、側面のチェッカー受けにドアチェッカーを掛けます。



【90˚ストッパー】（オプション）
- ドア内側のホルダーに収められている90˚ストッパーを外し、ドアフレームの受け穴に差し込んで固定します。

※その他の90˚ストッパーについては、P.39を参照してください。

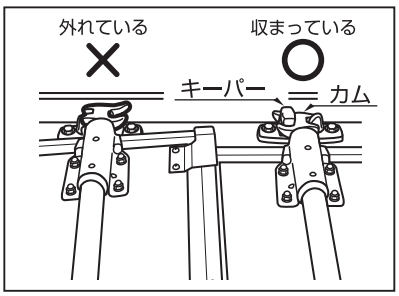
⚠ 注意
- ドアをあけたら開けたら必ずドアストッパーにてドアを固定してください。
- 風の強いとき（5m / 秒以上）は危険ですので、必ずドアチェッカーにてドアを固定してください。

閉め方

開け方の逆手順で行います。

（1）ドアチェッカー又は、90˚ストッパーを外してドアを閉める。

（2）ハンドルを操作して、カムをキーパーに収める。



⚠ 注意
- カムがキーパーに確実に収まっていることを確認してください。外れている状態では、走行中にドアが開き事故を起こす恐れがあります。

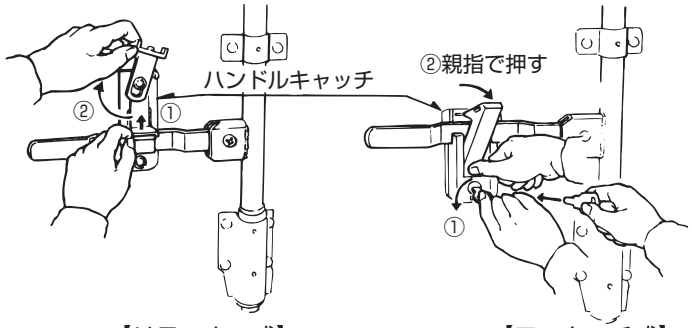
（3）ハンドルをハンドルキャッチに戻して、ロックをする。

⚠ 注意
- 車から離れる場合は、必ずドアを施錠してください。

4.2　スライド式ドア（オプション）

開け方

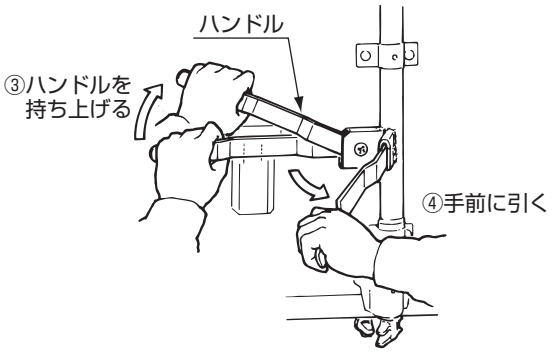
（1）ハンドルキャッチのロックを解除する。（①→②の順序）



【リテーナー式】　【ワンタッチ式】

参考

●ワンタッチロックのツメにハンドルが乗った状態でフック下部を押すと、重い場合があります。ハンドルを持ち上げぎみにすると楽に操作できます。



（2）ハンドルを持ち上げて、手前に引いてドアを開ける。（③→④の順序）

（3）ドアをもどり止めを越えるまで後方へ静かにスライドさせる。

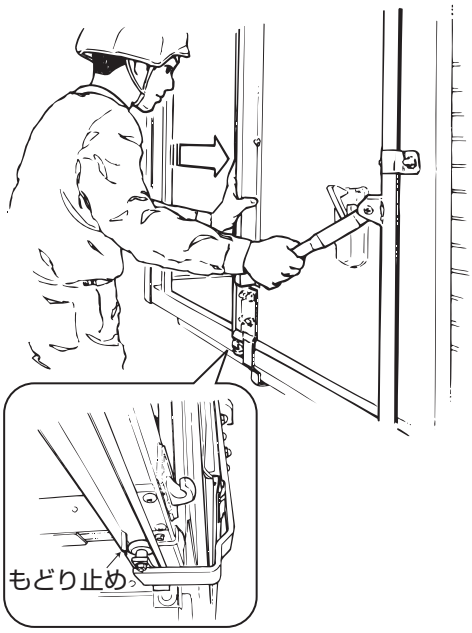
注意

●ドアは必ずもどり止めを乗り越える位置まで開いてください。ドアが自重で戻りだし、ドアにはさまれたり思わぬ事故の原因となります。

●荷室内に乗降するときは絶対にスライドドアにつかまらないでください。
スライドドアは固定されておらず、不安定で危険です。

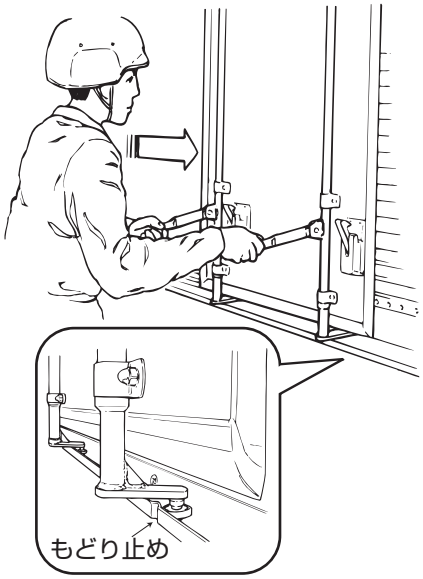
参考

●スライドドアは必要以上の力で強く開けないでください。スライド機構を損傷する恐れがあります。



【1本ロッド式】

●2本ロッド式は、2本のハンドルを同時に操作し、もどり止めを乗り越えるまで後方へ静かにスライドさせる。



【2本ロッド式】

閉め方

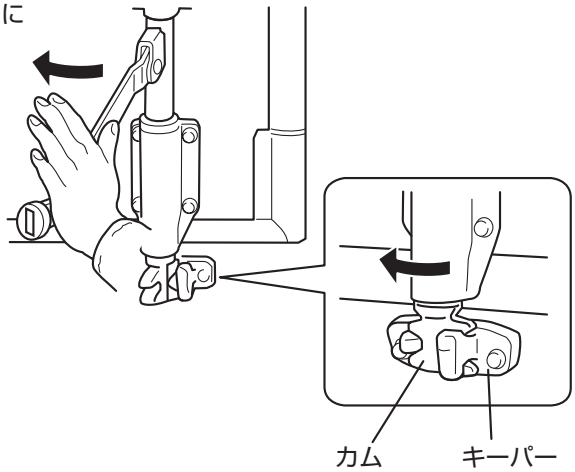
開け方の逆手順で行います。

（1）スライドドアを前方にスライドさせる。

（2）ハンドルを操作して、カムをキーパーに収める。

⚠ 注意

●カムがキーパーに確実に収まっていることを確認してください。外れている状態では、走行中にドアが開き事故を起こす恐れがあります。



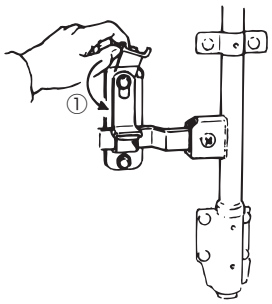
（3）ハンドルをハンドルキャッチに戻して、ロックをする。（①→②→③の順序）

⚠ 警告

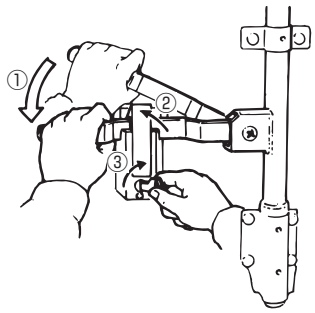
●ロックする前に荷室内に人がいないことを確認してください。万一、閉じ込めてしまうと大変危険です。

⚠ 注意

●車から離れる場合は、必ずドアを施錠してください。



【リテーナー式】



【ワンタッチ式】

4.3　ワンタッチスライドドア（オプション）

開け方

（1）ロックを解除する。
（2）レバーに手を掛け、もどり止めを乗り越えるまで後方へ静かにスライドさせる。

⚠ 注意

- ドアは必ずもどり止めを乗り越える位置まで開いてください。ドアが自重で戻りだし、ドアにはさまれたり思わぬ事故の原因となります。
- 荷室内に乗降するときは絶対にスライドドアにつかまらないでください。スライドドアは固定されておらず、不安定で危険です。



参考

- スライドドアは必要以上の力で強く開けないでください。スライド機構を損傷する恐れがあります。

閉め方

（1）レバーに手を掛け、一度後方へずらしてから前方へ引くように軽く反動をつけてスライドさせる。自動的にロックされる。



⚠ 警告

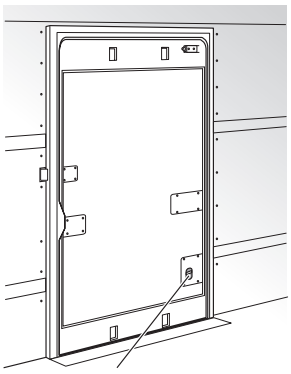
- ドアを閉じる時は、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。万一、閉じ込めてしまうと大変危険です。

⚠ 注意

- ドアが完全に閉まっている事を確認してください。半ドア状態では、走行中にドアが開き事故を起こす恐れがあります。
- ドアを閉めるときは必ずレバーを持って閉めてください。ドア本体に手を掛けて閉めると、手をはさむ恐れがあります。
- 車両から離れる場合は、必ずドアを施錠してください。

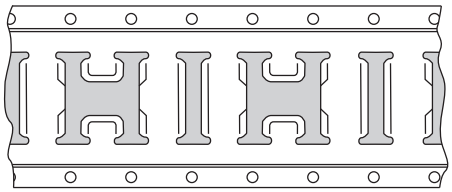
非常時の開け方

- 万一、閉じ込められたときは、ドア内側の非常解錠レバーを指で押し上げ、ロックを解除するとドアが開きます。



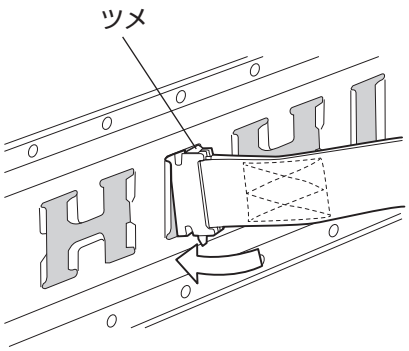
5．緊締装置について

5．1　ラッシングレール（オプション）



緊締装置の基本システムです。ラッシングベルトやラッシングビームとの併用で、荷物をしっかりと固定できます。

5．2　ラッシングベルト（オプション）



『掛け方』

（1）ラッシングベルト端部金具のツメを手前に引いて金具の上部をレールにかけ、次に下部をかける。

（2）手で数回引いて、外れないことを確認する。

『外し方』

掛ける時の逆の手順で行います。

参考

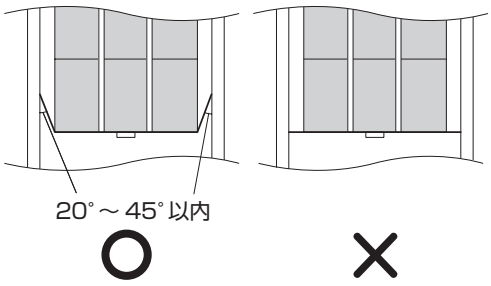
●ラッシングベルト、ラッシングビーム等は積載物です。最大積載量を超えないように注意してください。

⚠ 注意

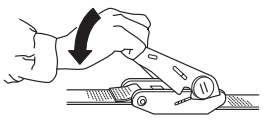
●ラッシングベルトは必ず 20˚～45˚ 以内の角度で取付けてください。水平や垂直に近い角度で締め付けると、ラッシングレールやボデーを変形または破損する恐れがあります。

●ラッシングレールにラッシングベルトを掛ける時には、1,960N（200kg）以下の力で締め付けてください。それ以上の力で締め付けると、ラッシングレールやボデーを変形または破損する恐れがあります。

●シャープなコーナーには、コーナープロテクターを使ってください。

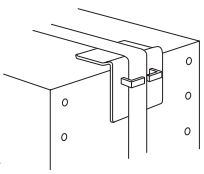


【バックル式】

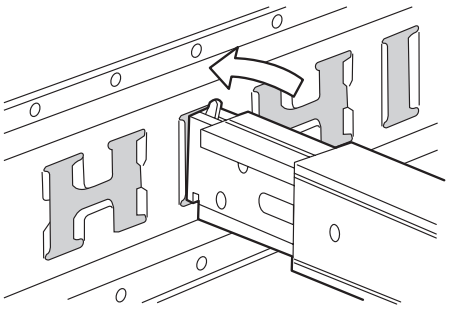


●腕の力以上の力でバックルを締め付けないでください。

【コーナープロテクター】

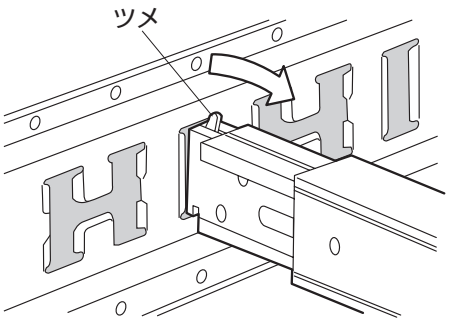


5.3　ラッシングビーム（オプション）



『掛け方』

ラッシングビーム端部金具の下側をかけ、次に水平に上げながら上側を押し込む。



『外し方』

ラッシングビーム端部金具のツメを押さえ、ビーム全体を持ち上げながら手前に引く。

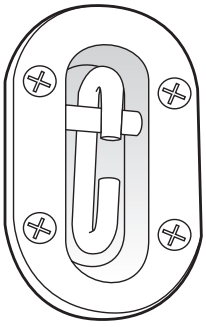
⚠ 注意

●ラッシングビームの脱着時は手や指をはさまれないように注意してください。

5.4　フック（オプション）

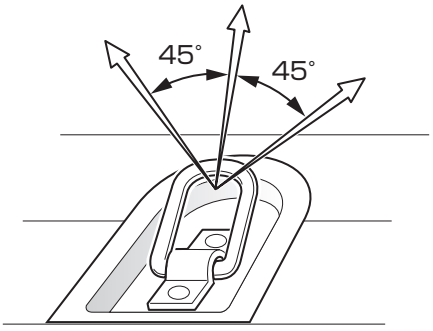
●壁用埋込フック

許容引張強度 490 N（50 kg）



●床用埋込フック

許容引張強度 9,800 N（1,000 kg）



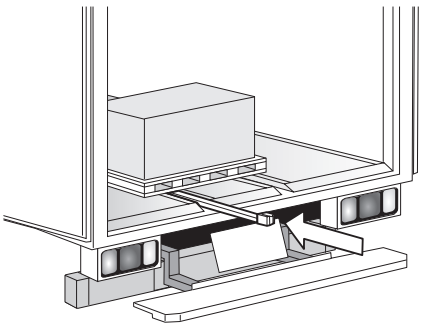
6．荷役省力装置について

6．1　手動式床搬送装置（オプション）

ボデー内に通常2列または4列のレールを設置し、そのレール内を専用ローダーでパレット化した荷物を載せ、人力で移動させる装置です。

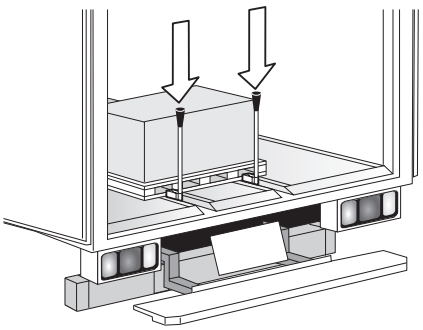
⚠ 警告

●ローダーを使用するときは、地盤の固い場所に停車し、車両を水平に保ってください。
●操作中の荷崩れや転落などに十分注意して使用してください。

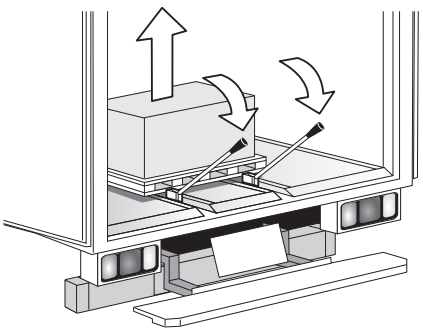


『使い方』

（1）荷物をレールの中央部に積込み、ローダーを左右のレール上に積荷に当たるまで差込む。



（2）左右のローダーにそれぞれハンドルを差込む。

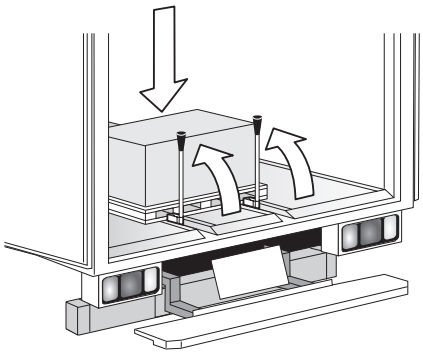


（3）2本のハンドルを手前に倒す。積荷が床面から離れていることを確認する。

⚠ 警告

●積荷の状態が安定していることを確認してください。

（4）積荷を手で押し、移動する。



（5）移動し終えたら、2本のハンドルを垂直に立て、積荷が床面に着いていることを確認する。

（6）ハンドルおよびローダーを抜き出し、格納庫など所定の場所に収納する。

※ローダーの操作はメーカーにより異なる場合があります。詳しいことは、各装置メーカー発行の取扱説明書をご覧ください。

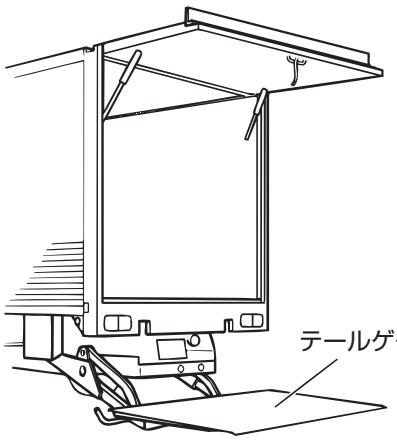
⚠ 注意

- ●ハンドルを持って積荷を移動しないでください。
- ●積荷は、移動するときに崩れないように積込んでください。
- ●積荷を移動するときやハンドルを操作するときは、手足をはさまれないように十分注意して行ってください。
- ●ハンドルを倒した状態から起こすときは、急激な反動がある場合がありますので、十分注意して行ってください。
- ●ローダーを投げないでください。

⚠ 警告

- ●後方へ移動するときは、ローダーごと外へ転落しないよう十分注意してください。

6.2　テールゲートリフター（オプション）



重量物の荷役作業を容易にする装置です。

※詳しくは、各リフトメーカー発行の取扱説明書をご覧ください。

7. 電装品について

7.1　ランプ類

⚠ 注意

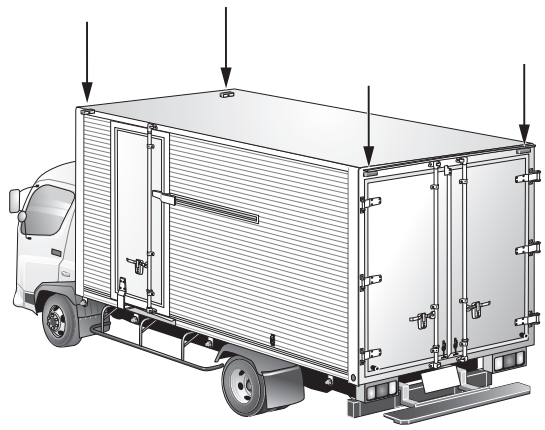
●電気容量を超過する恐れがありますので、追加配線・灯火器の増設はしないでください。
●球切れの場合は、ボルト・ワットを確認の上、同容量のものと交換してください。
●ヒューズ切れの場合は原因を調べ、ボルト・アンペアを確認の上、同容量のものと交換してください。

⚠ 注意

●エンジンが停止した状態で室内灯を長時間使用すると、バッテリ上がりの原因になります。使用後はすみやかに消灯してください。

参考

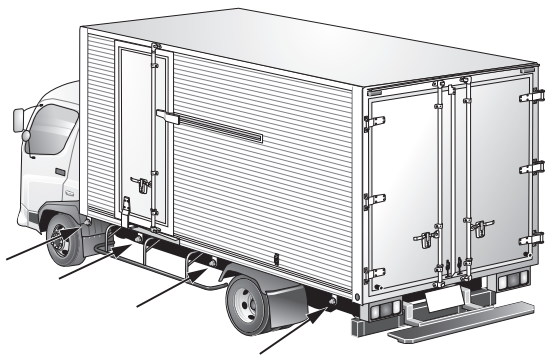
●ランプ類のスイッチの仕様および取付け位置は、車型によって異なります。



●トップマーカーランプ

ライティングスイッチがスモールのとき、キャブ内スイッチを「ON」にすると点灯します。



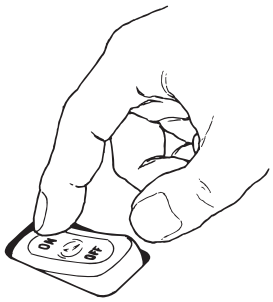


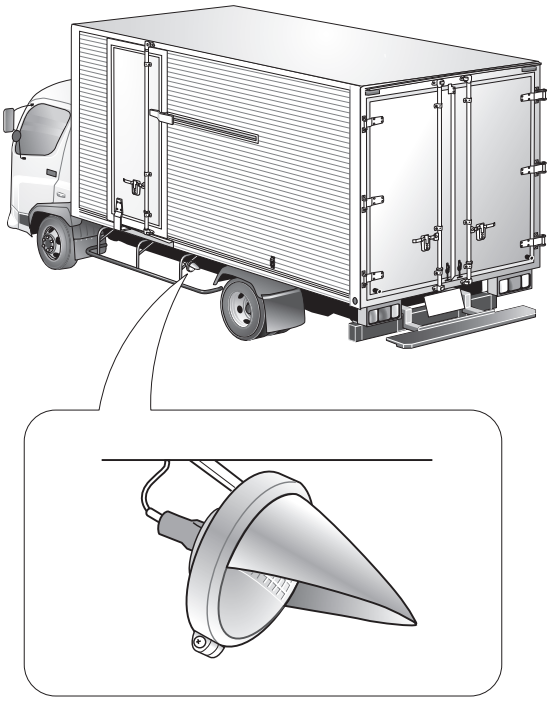
●サイドマーカーランプ

ライティングスイッチがスモールのとき、キャブ内スイッチを「ON」にすると点灯します。

●路肩灯（オプション）

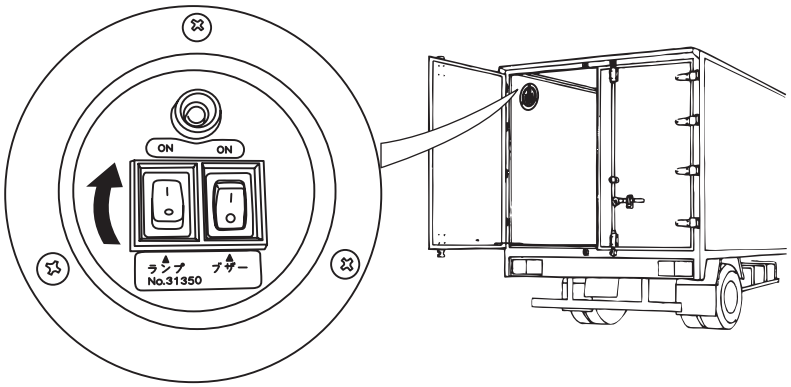
ライティングスイッチがスモールのとき、キャブ内スイッチを「ON」にすると点灯します。

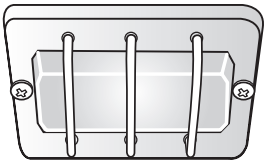




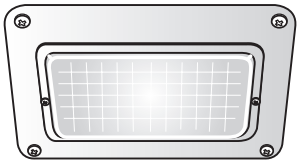
●室内灯

エンジンキーが「ACC」のとき、ボデー内またはキャブ内スイッチを「ON」にすると点灯します。

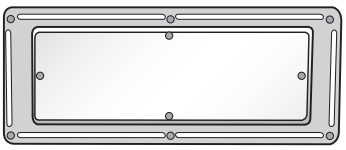




【白熱灯（小）】



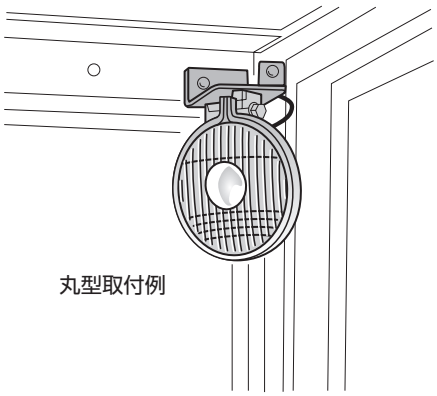
【白熱灯】



【蛍光灯】
【LED灯】

●作業灯（オプション）

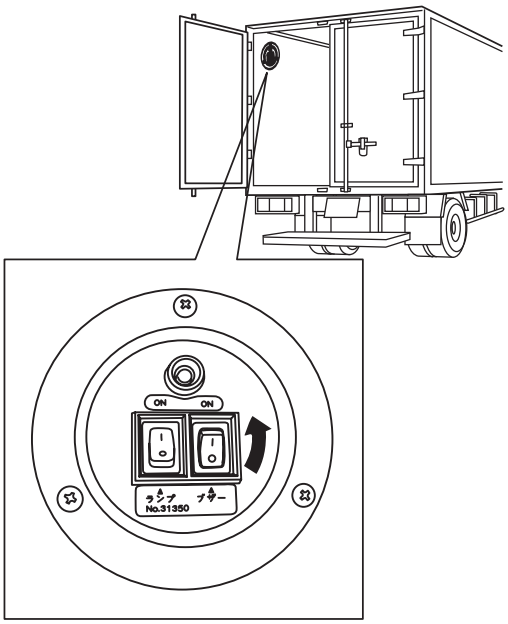
ボデー内またはキャブ内スイッチを「ON」にすると点灯します。



丸型取付例

7．2　非常警報装置（オプション）

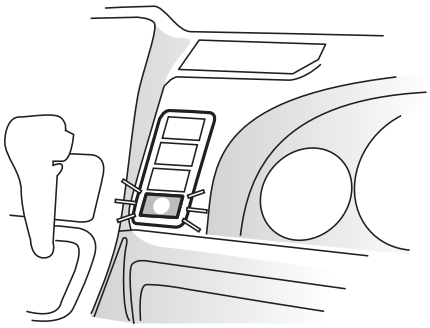
非常警報スイッチは、ボデー内に取付けられています。万一ボデー内に閉じ込められたとき、このスイッチを「ON」にすると、閉じ込められていることをホーンまたはブザーにより外部に知らせることができます。「ＯＦＦ」にするとホーンまたはブザーが鳴り止みます。
このスイッチはエンジンキーの位置に関係なく作動します。



⚠ 警告

●ホーンまたはブザーが異常に鳴り続けているときは、ボデー内に人が閉じ込められている可能性がありますので、ただちにドアを開け、ボデー内を確認してください。

7．3　ドア開放警告灯（オプション）



パイロットランプ取付例

エンジンキーが「ＡＣＣ」または「ＯＮ」の位置のときにドアが開いていると、キャブ内のパイロットランプが点灯して知らせます。

⚠ 警告

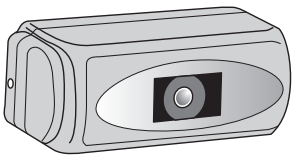
●パイロットランプが点灯しているときは、ただちにドアが開いていないか点検してください。

参考

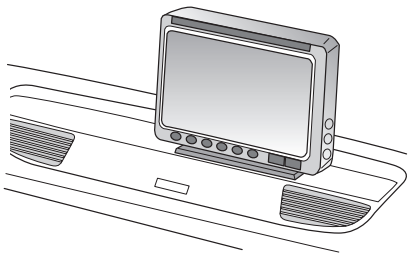
●ランプ類のスイッチの仕様および取付位置は、車型によって異なります。

7．4　バックアイカメラ＆モニター（オプション）

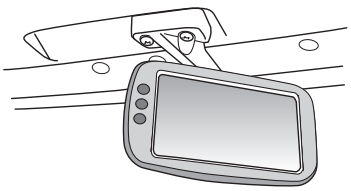
車両後方の様子をモニターに映し、バック時の不安を解消します。



バックアイカメラ



バックアイモニター
（ダッシュ上部取付例）



バックアイモニター
（バックミラー部取付例）

※詳しくは、各メーカー発行の取扱説明書をご覧ください。

参考

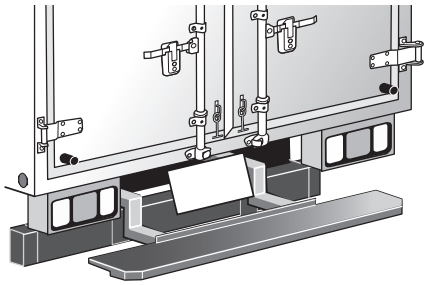
●バックアイカメラ＆モニターの形状および取付位置は、仕様・車型によって異なります。

8. 付属品・装備品について

8.1　リヤステップ

⚠ 注意

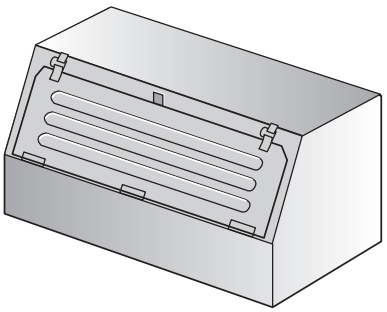
●ステップを足場に使うときは、踏み外しや転落に十分気をつけてください。特に、雨や雪の降っているときは、滑りやすくなっていますので注意してください。



8.2　工具箱（オプション）

⚠ 警告

●走行前に工具箱のふたがきちっと閉まっていることを確認してください。走行中に工具箱が開くと搭載物が落下し、後続車や人・物に当たり思わぬ事故の原因になります。



参考

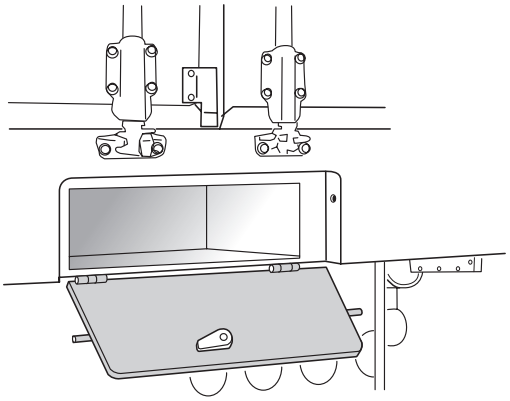
●工具箱の形状および取付位置は、仕様・車型によって異なります。

8.3　後部格納庫（オプション）

手動式床搬送装置（ローダー）等の長尺物の格納に使用します。

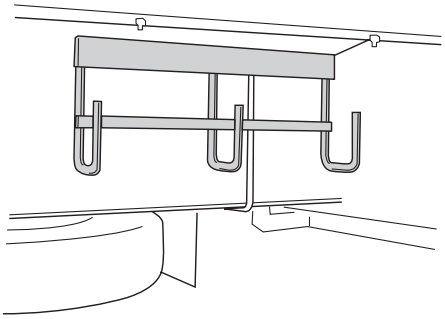
⚠ 警告

●走行前に格納庫のふたがきちっと閉まっていることを確認してください。走行中に格納庫が開くと搭載物が落下し、後続車や人・物に当たり思わぬ事故の原因になります。



8.4　タイヤチェーン掛け（オプション）

使用しない時のタイヤチェーンを一時的に掛けておきます。



⚠ 警告

●走行中の振動等で、チェーンが垂れたり外れたりしないように確実に固縛してください。
　また、チェーンと路面との隙間は十分に開けるように掛けてください。

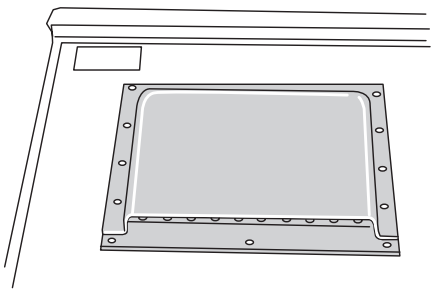
⚠ 注意

●タイヤチェーン掛け以外の用途に使用しないでください。

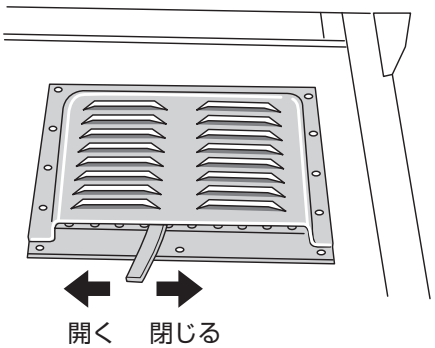
8.5　ベンチレーター（オプション）

荷室内の風通しをよくし、積荷のムレを防ぎます。
レバー操作により、開閉が可能です。

前面用カバー付



側面またはリヤドア用

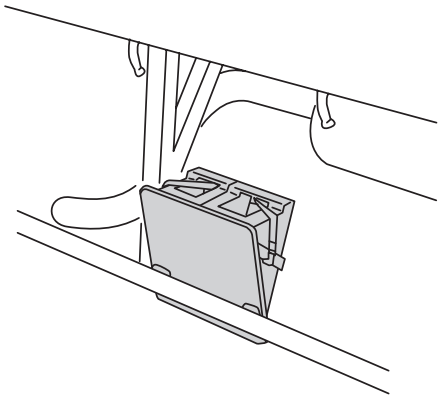


⚠ 注意

●ベンチレーター部には下から水道ホースなどで直接水をかけないでください。
　庫内に水が入り、積荷を濡らす恐れがあります。

8.6　車輪止め（オプション）

駐車時にタイヤを固定します。

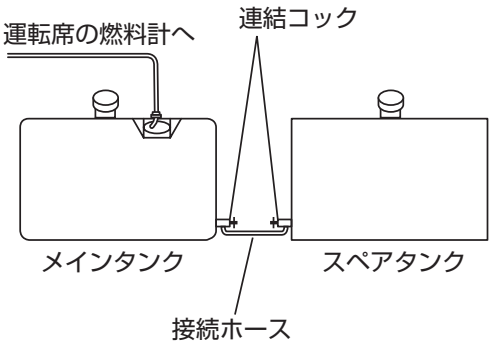


⚠ 警告

●車輪止めはパーキングブレーキの補助です。
必ずパーキングブレーキと併用してください。

8.7　増設燃料タンク（オプション）

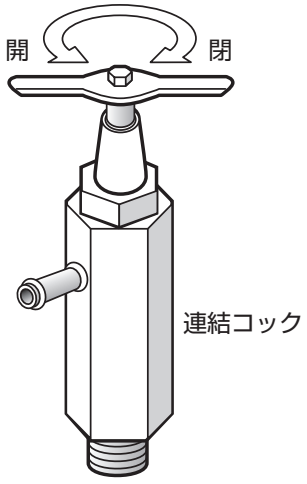
メインタンクとスペアタンクは連結コックを介して接続ホースで連結されています。
スペア側のタンクコックは、使用時以外は閉めておいてください。



⚠ 警告

●燃料タンクに付着した燃料はきれいにふき取ってください。万一火気が近いと、火災の危険があります。

●燃料タンク、連結コックおよび接続ホースから燃料の漏れ、にじみがないか常に点検し、異常があるときは速やかに修理してください。



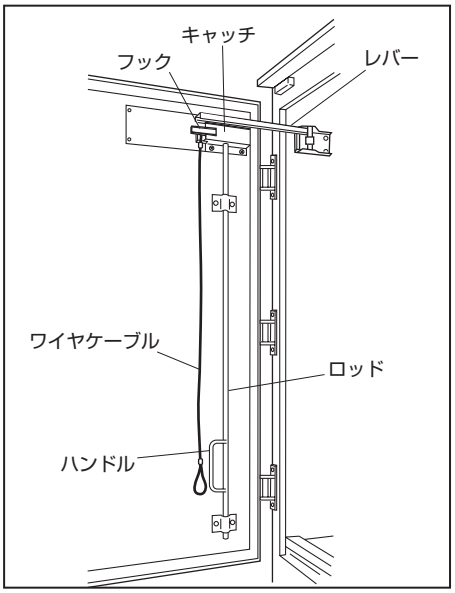
🔍 参考

●標準タンクより容量の大きい燃料タンクを増設したときは、増設された燃料タンクがメインタンクとなります。

8.8　90° ストッパー（オプション）

観音ドアを 90° に開いた状態と、全開（270°）で固定することができます。

■セルフ式



操作方法

● 90° で固定するとき

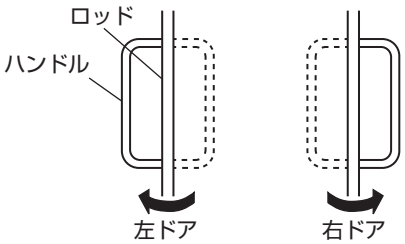
左ドアを開く

→ハンドルがロッドに対して左側にあるとき、
そのままドアを開けば自動的に 90° で固定される。

→ハンドルがロッドに対して右側にあるとき、
ドアを開きぎみにしながらハンドルを回して固定する。

右ドアを開く

→ハンドルとロッドの位置関係は左ドアと逆になる。



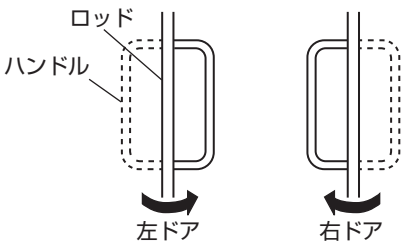
● 90° 固定からドアを閉じるとき

左ドアを閉じる

→ハンドルを右側に回すとフックが持ち上がり
ロックが解除される。そのままドアを閉じる。

右ドアを開く

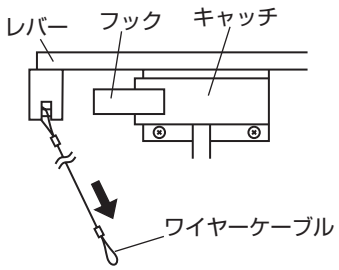
→ハンドルの回転方向は左ドアと逆になる。



●全開（270° ）で固定するとき

ドアを開き、レバー先端がフックに入る手前で
ワイヤケーブルを手前に引いてレバーを浮かせ
ながらドアを開く。

ドアを開いたら、ドアチェッカーで固定する。



■タキゲン製

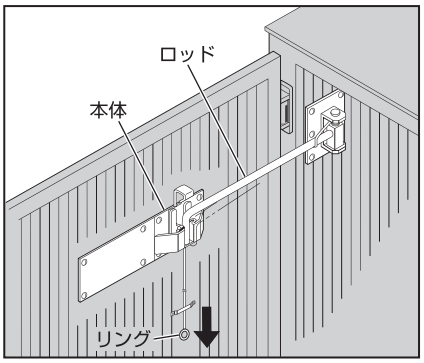
操作方法

●ドアを 90° 開くと、ロッドが本体に入りロックされる。

●リングを引くとロッドが本体より外れロックが解除される。

● 90° 以上開く場合は、リングを引きながらドアを開ける。

※上記は、タキゲン製 90° ストッパーの説明です。
他メーカー製や仕様が異なる場合には、各部品メーカー
発行の取扱説明書をご覧ください。



9．点検・手入れについて

9．1　点検・手入れ時の注意

1．地面が固い平坦な場所で行ってください。
2．必ずエンジンを止めて、エンジンキーを抜き取っておきます。
3．パーキングブレーキレバーを確実に引き、チェンジレバーはニュートラル位置にします。
4．必ず車輪止めをします。
5．適切な工具を使用します。
6．電気系統の作業をするときは、必ずバッテリの㊀端子を外しておきます。
7．火気の近くでは作業しないでください。
8．運行直後は、エンジン、排気管、ラジエーターなどが高温になっています。直接触れると火傷をする恐れがあります。
9．屋根の上には絶対に乗らないでください。
10．作業後、エンジンルーム内や車のまわりに工具などの置き忘れがないか、確認してください。
11．作業後、各部が正常であるか確認してください。

9．2　日常 (運行前) 点検・定期点検

異常は早期に発見し、対処することが大切です。そのためにも日常 (運行前) 点検、定期点検は重要ですので、必ず実施してください。

点検部位・内容		点検整備時期			
		日常点検	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月
ボデー下廻り	燃料タンク、サイドガード、リヤバンパー、タイヤキャリア、U-ボルト、スベリ止めボルトの点検と増し締め	○			
	スペアタイヤ装置の亀裂点検	○			
	火災防止のためのマフラー廻りの点検	○			
	縦根太、横根太との組み合わせ根太ボルトの増し締め		○		
	床下およびフレーム廻りの清掃		○		
	リヤバンパー溶接部の亀裂点検				○
	リヤフェンダー取付ボルトの点検と増し締め				○
	燃料タンクの油漏れ点検				○
	工具箱取付ボルトの点検と増し締め				○
	各種電装品取付ボルトの点検と増し締め				○
	牽引フック取付ボルトの点検と増し締め、溶接部の亀裂点検				○
	根太の変形や亀裂点検		○		
ボデー外装	ボルトやビスの脱落、ゆるみ点検		○		
	リベットのゆるみ点検		○		
	シール剤の亀裂、剥離点検		○		
	パネルの損傷点検		○		
ドア	パッキンの損傷点検		○		
	ドア金具のガタ、開閉のスムーズさの点検	○			
内装	床材の割れ、損傷点検		○		
	床上張りの亀裂、損傷点検		○		
	内張りの割れ、ビス等のゆるみ点検		○		
	シール剤の亀裂、剥離点検		○		
電装	灯火関係の正常な点灯の点検	○			
	非常警報装置の正常な作動の点検	○			
	配線系統の干渉、被覆のはがれの点検		○		
	ターミナルのゆるみ点検		○		
	各部の給脂			○	

9.3　法定点検

車両の点検整備は法律により義務付けられています。下記に本取扱説明書に関する点検箇所を示します。その他、車両側の点検箇所もありますので合わせて実施して下さい。
また、点検の結果、異常が見つかった場合、必ず整備を実施して下さい。

点検箇所	点検項目
ボデーマウント ・Uボルト ・滑り止め ・対向ブラケット	変形、損傷、取付部の緩み、がた
サイドガード	変形、損傷、取付部の緩み、がた
リヤフェンダー	変形、損傷、取付部の緩み、がた
リヤバンパ	変形、損傷、取付部の緩み、がた
灯火器類	点灯、変形、損傷、取付部の緩み、がた
ツールボックス （車両総重量８トン以上）	変形、損傷、取付部の緩み、がた
タイヤキャリア （車両総重量８トン以上）	変形、損傷、取付部の緩み、がた
スペアタイヤ （車両総重量８トン以上）	取付装置の作動、取付状態、チェーンの異常、傾き、取付状態
燃料タンク	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた

9．4　ランプの交換

⚠ 注意

- ●電球は必ず規定のものを使用してください。規定以外のものを使用すると、火災の原因となります。
- ●ランプが不灯のまま走行すると、思わぬ事故の原因となります。
- ●電球の交換を行うときは、必ずエンジンキーを抜き､各スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

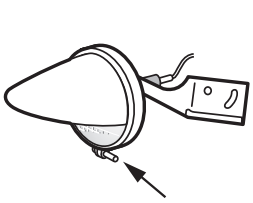


●路肩灯、サイドマーカーランプ

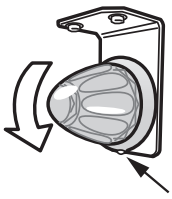
ランプの締め付けバンドのネジをゆるめて、
電球やレンズを交換します。

参考

- ●LED 灯タイプのサイドマーカーランプは一体(アッセンブリ)交換となります。



【路肩灯】

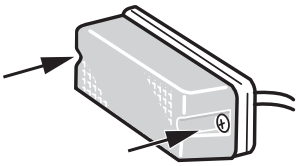


【サイドマーカーランプ】

●トップマーカーランプ

参考

- ●トップマーカーランプは一体 (アッセンブリ) 交換となります。



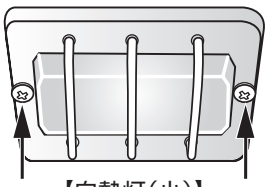
【トップマーカーランプ】

●室内灯

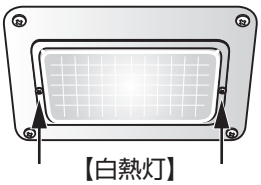
カバーを取付けているネジを外して、
白熱灯または蛍光灯を交換します。

参考

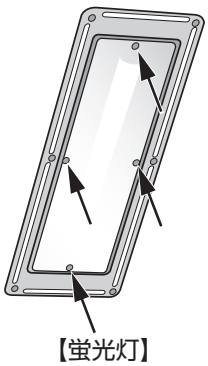
- ●LED 灯は一体(アッセンブリ)交換となります。



【白熱灯(小)】



【白熱灯】



【蛍光灯】

●交換ランプの仕様

名　称		容　量
路肩灯		２４Ｖ - ３５Ｗ
サイドマーカーランプ		２４Ｖ - ６Ｗ
トップマーカーランプ		２４Ｖ - １.２Ｗ（ＬＥＤ）
室内	白熱灯（小）	２４Ｖ - １５Ｗ
	白熱灯	２４Ｖ - １０Ｗ×２
	蛍光灯	２４Ｖ - ８Ｗ
作業灯		２４Ｖ - ３５Ｗ

※上記のワット数は標準仕様の場合を示します。
お客様の個別仕様により、ワット数が異なる場合があります。

⚠ 注意

●電球は必ず規定のものを使用してください。規定以外のものを使用すると、火災の原因となります。

●電球の交換を行うときは、必ずエンジンキーを抜き、各スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

９.５　消耗部品

次の部品は使用頻度・経時変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に磨耗や損傷の状態を見て、早めに交換してください。

●各部締結ピン・シート類
●泥除けゴム
●各部のガスケット・スプリング・グリース・オイル・電球・ヒューズ類

９.６　定期交換部品

次の部品は定期的に交換して性能と機能を維持し、安全・快調な状態でご使用ください。

●ロールアップドアワイヤロープ、ドアガスケット類	（１年ごとに交換）
●ロールアップドアスプリングオペレーター	（２年ごとに交換）

9．7　各部の給脂

グリース給脂は３ヶ月毎に実施してください。

グリースは、下図の回転部、摺動部、ベアリング部にスプレーグリースにて
給脂してください。

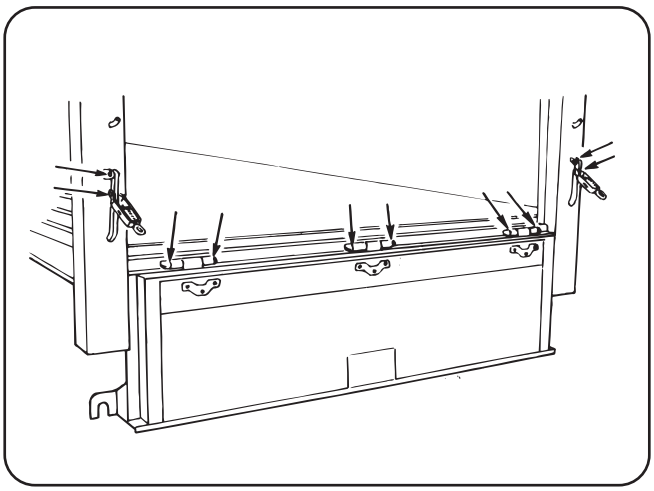


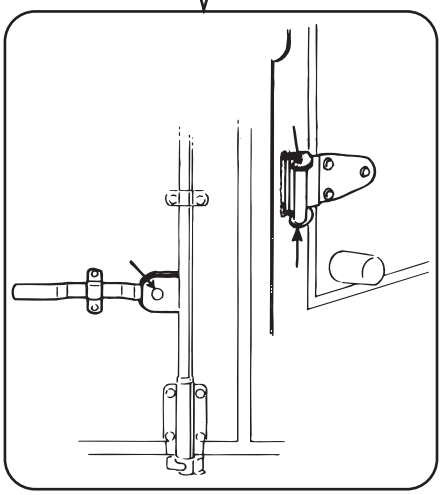
スプレーグリース

観音ドア

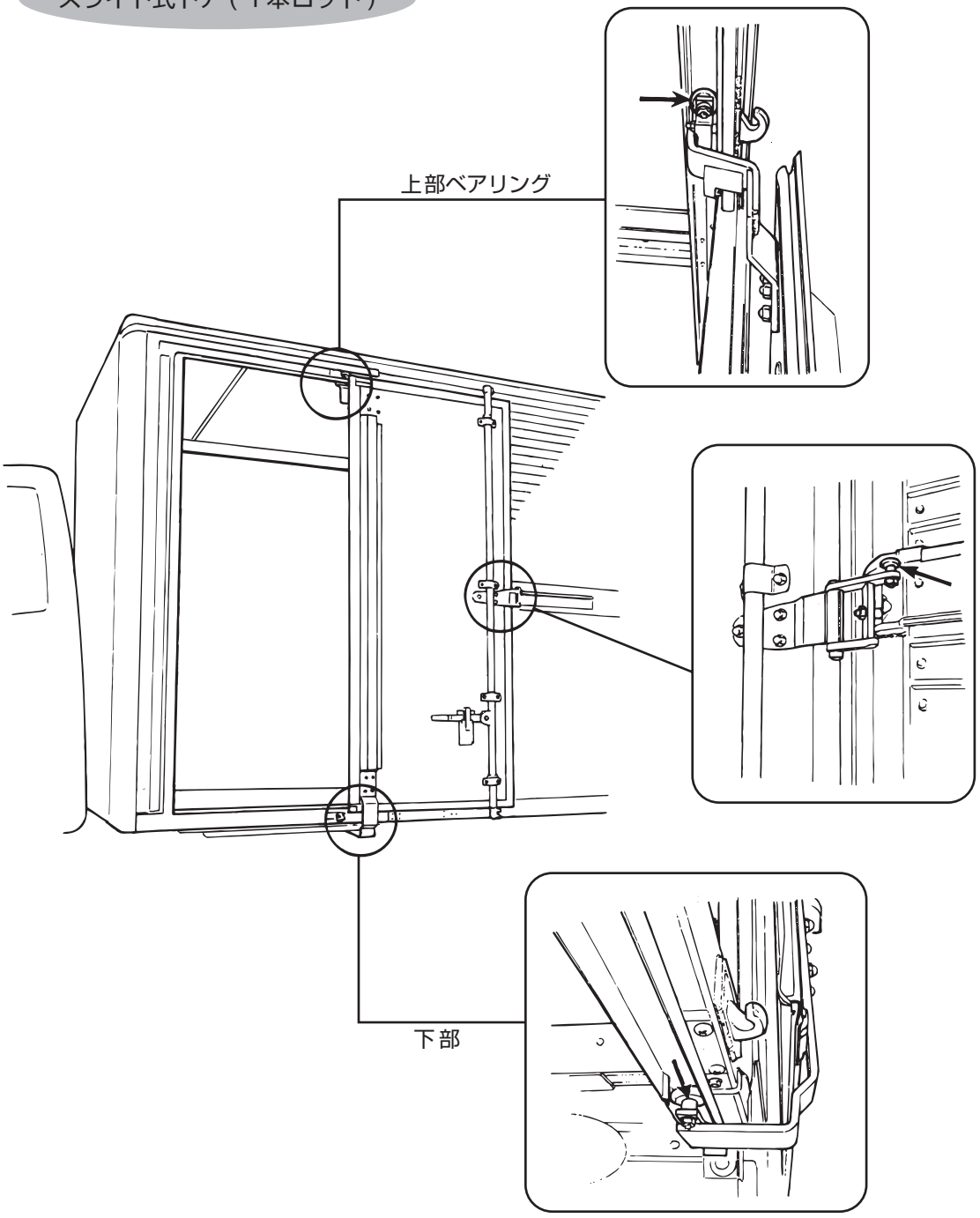


シャッタードア (アオリ付きの場合)

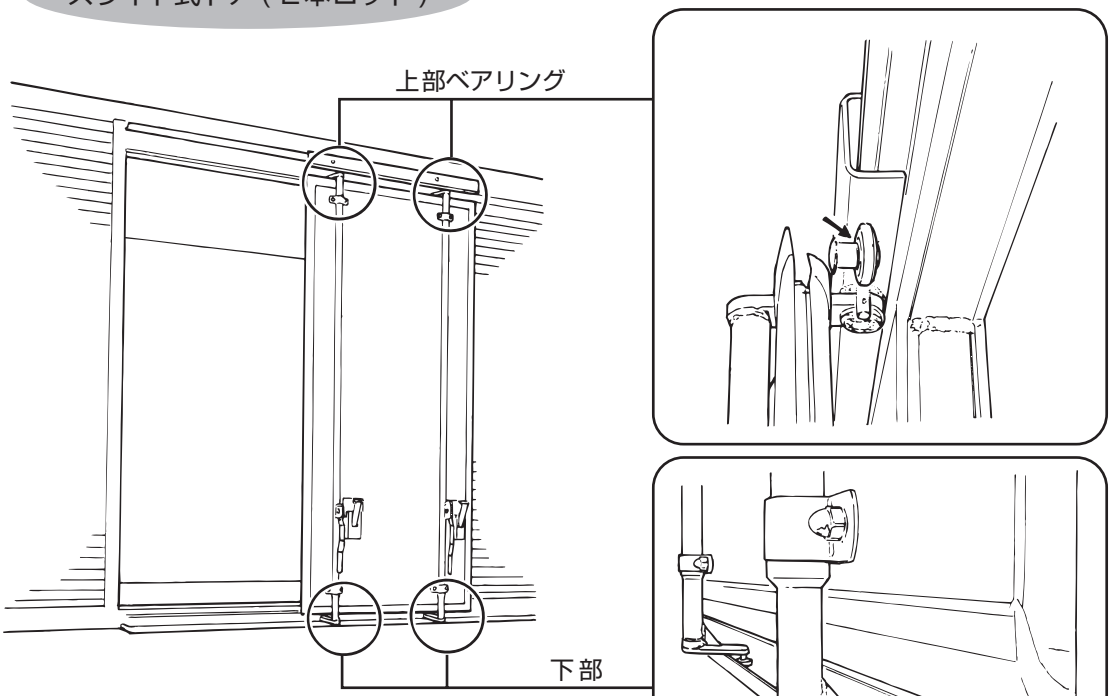


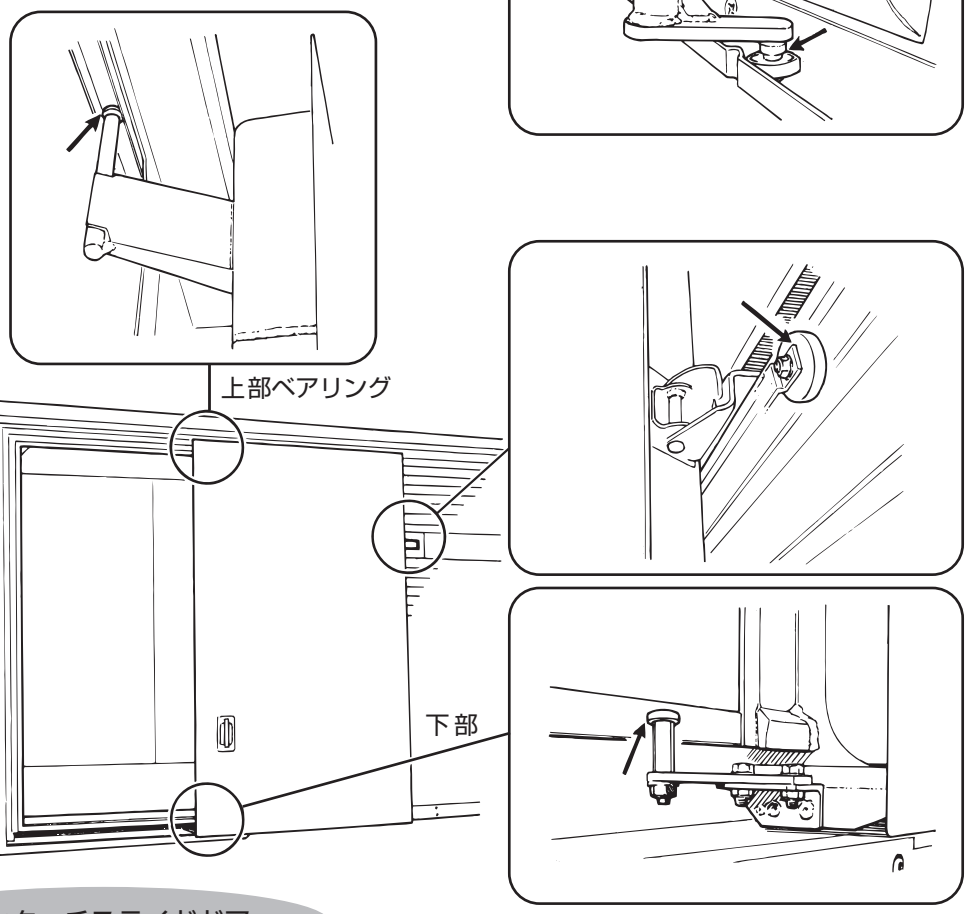


スライド式ドア（１本ロッド）



スライド式ドア (2本ロッド)





ワンタッチスライドドア

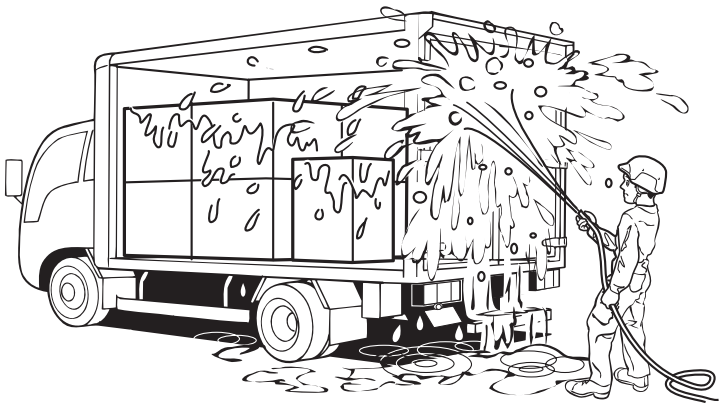
９．８　車の手入れ

●ボデー外板の手入れ

１．水洗いします。
２．汚れのひどいときは中性洗剤を使用します。
３．やわらかい布で汚れを洗い落とします。
４．外板にはん点が残らないよう水を拭き取ります。

●庫内の手入れ

１．ほうき等で清掃します。
２．水拭き、カラ拭き、モップ掛け等を行い、いつも清潔にしておきましょう。



⚠ 注意

●洗車は、荷物を積んでいないときに行ってください。水圧によってボデー内に水が浸入し、積荷が濡れる恐れがあります。
●ドライ・保冷仕様車の室内の水洗いは行わないでください。
防水対策が行われていない室内を濡らすと、床板やその他の内張り材に反りや割れを発生させ、床下防水材に水がたまり、金属のサビや床板の腐りを発生させる原因となります。

10. 架装物の安全点検制度

定期的な点検と整備で事故・故障を未然に防止

●本点検制度は、車体工業会　会員が製造するトラックの架装物を、長期にわたり「安心・安全」にお使いいただくために、会員が指定するサービス工場等にて定期的な点検・整備の実施を推奨するものです。

●点検の結果、異状が見つかった場合は、そのままにせず必ず整備の実施をお願いします。

●点検・整備を実施したら、車体工業会が発行する「トラック普通荷台／ドライバン／冷凍・保冷バン／ウイングバン」点検ノートの「点検整備実施記録簿」に記録してください。（車載）

●日常の使用に関しましては、本書内に記載されている「1」～「9」をご覧ください。

（荷台点検表）

点検箇所		点検項目	点検時期
下廻り部	ツールボックス(各種物入れ)(車両総重量8トン未満)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	タイヤキャリヤ(車両総重量8トン未満)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	スペアタイヤ(車両総重量8トン未満)	作動、取付状態	12月ごと
	タイヤチェーン掛け	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	リヤステップ	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
ボデー部	アオリ丁番	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	アオリ開閉補助装置	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	アオリ掛金	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	サイドシート(外板)	変形、損傷	12月ごと
	サイドシート締結リベット	緩み、がた、損傷	12月ごと
	リアドアヒンジ・金具	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	サイドドアヒンジ・金具(ウイングバン除く)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	羽根	変形、損傷、取付部の緩み、がた、作動	12月ごと
	羽根ロック装置・掛金	変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
油圧・電気装置	油圧ユニット	漏れ、作動、異音	12月ごと
	油圧シリンダー	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた、異音	12月ごと
	油圧ホース	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた	12月ごと
	緊急ブザー	作動	12月ごと

（法定点検項目）　　※車検時に点検する場合は、車両側で実施してください。

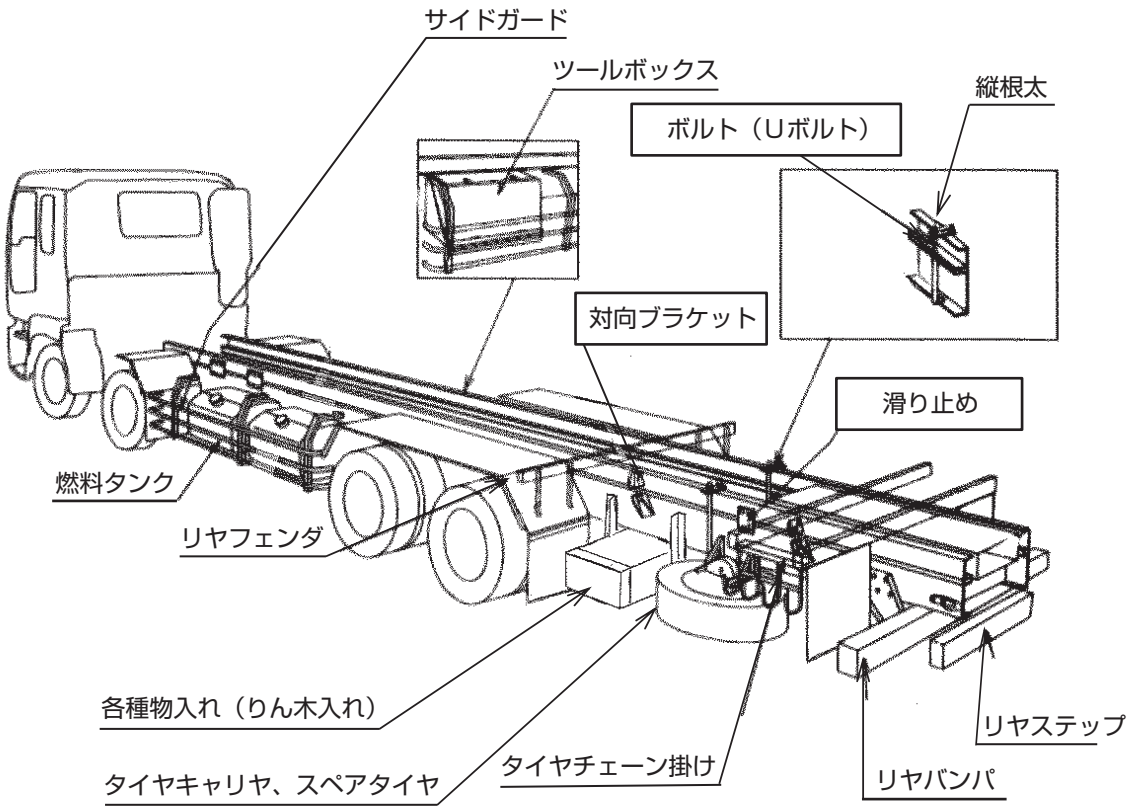
点検箇所		点検項目	点検時期
下廻り部	ツールボックス(各種物入れ)(車両総重量8トン以上)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	タイヤキャリヤ(車両総重量8トン以上)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	スペアタイヤ(車両総重量8トン以上)	作動、取付状態	—
	サイドガード	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	燃料タンク	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	リヤフェンダ	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	リヤバンパ	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	リヤ灯火器	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
結合部	ボルト(U ボルト)	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	滑り止め	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—
	対向ブラケット	変形、損傷、取付部の緩み、がた	—

●点検箇所と名称

【下廻り部】

【結合部】

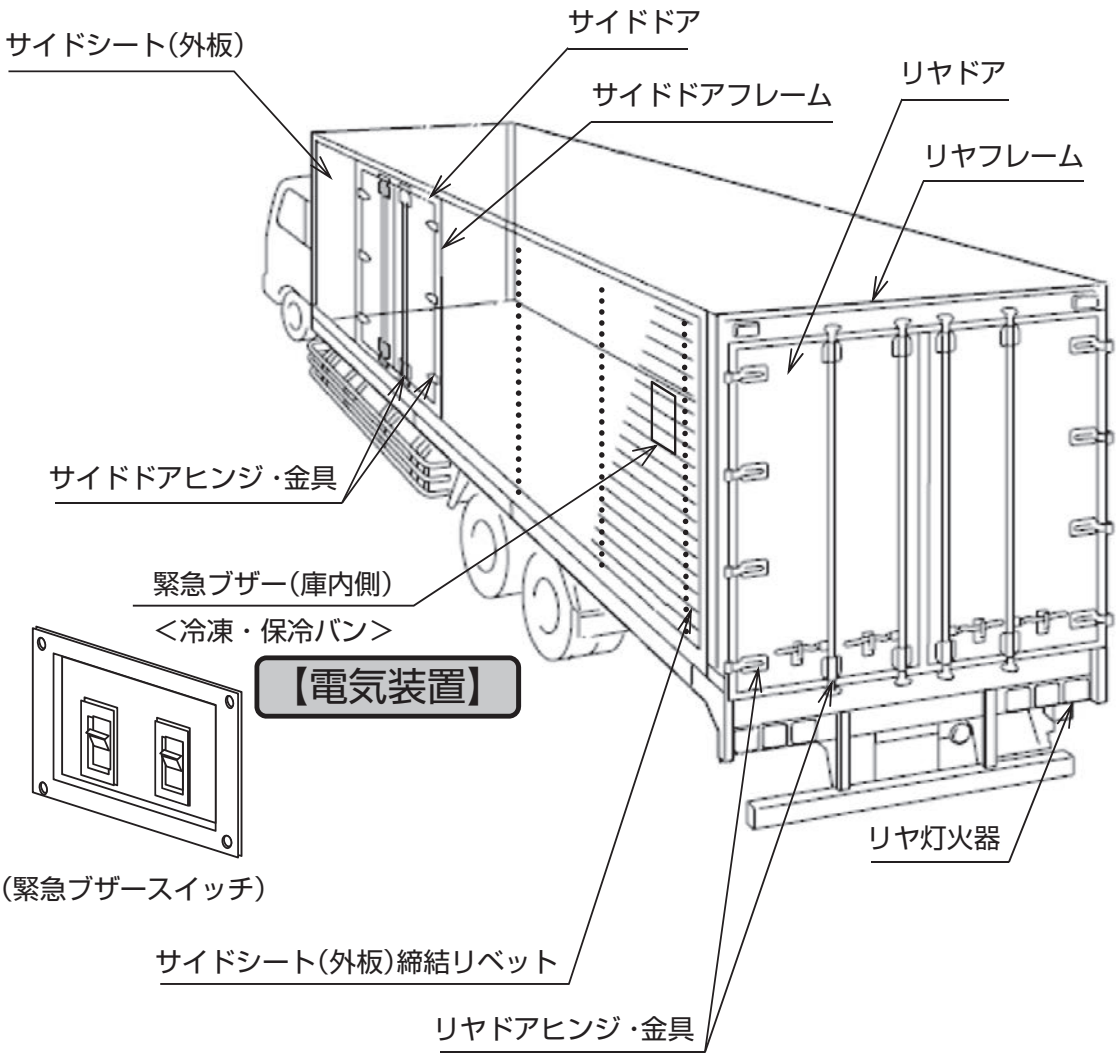
□ 枠内は、結合部（シャシーと架装物の連結部）を示します。



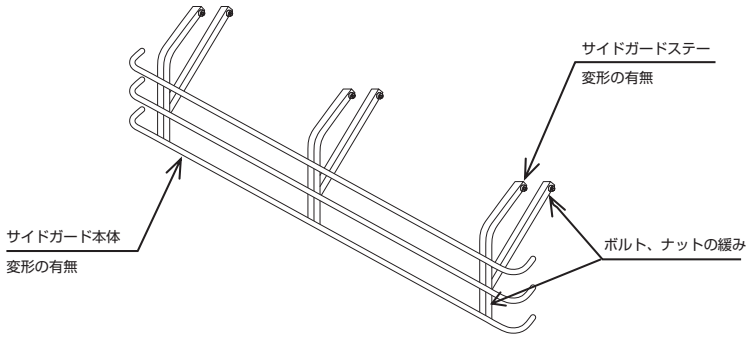
※この図は、シャシーからボデー部を取除いた状態を示します。

●点検箇所と名称

【ボデー部】
ドライバン／冷凍・保冷バン

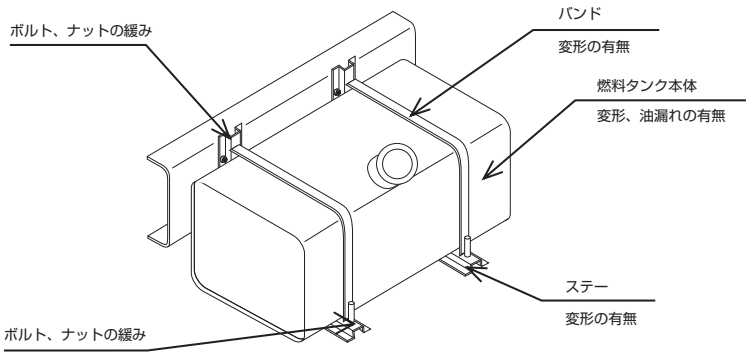


点検箇所	サイドガード
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



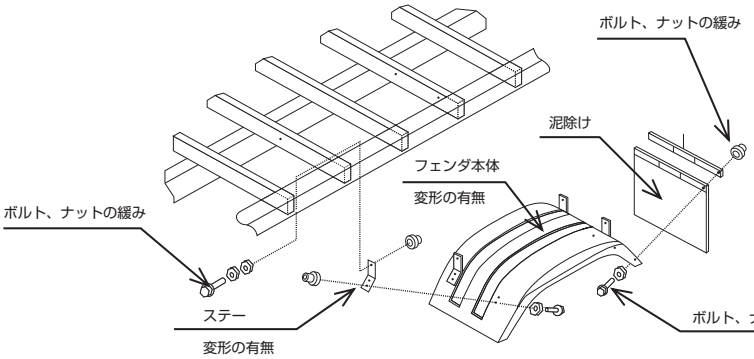
点検の実施方法
■サイドガード本体やステーに変形、曲がり等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷及び腐食がないかを点検する。

点検箇所	燃料タンク
点検項目	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■燃料漏れ、タンク、バンド、ステーなどに、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷及び腐食がないかを点検する。

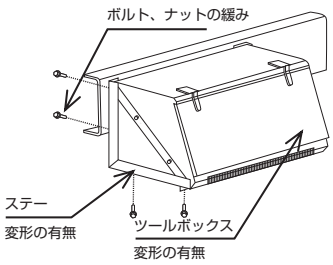
点検箇所	リヤフェンダ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



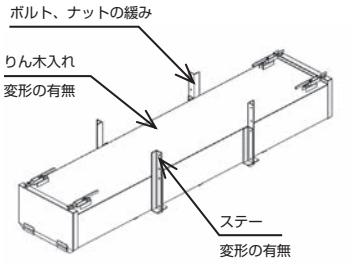
点検の実施方法
■フェンダ本体やステーなどに、変形、曲がり等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	ツールボックス（各種物入れ）
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検

【ツールボックス】

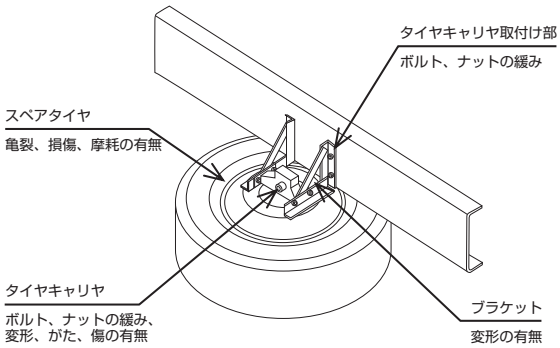


【りん木入れ】



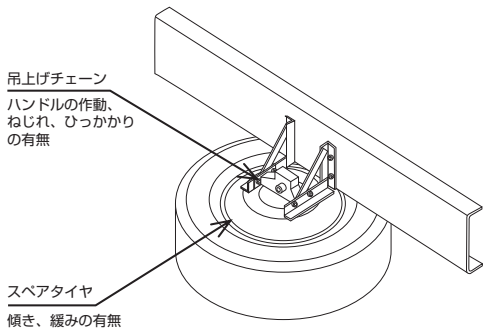
点検の実施方法
■本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	タイヤキャリヤ
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



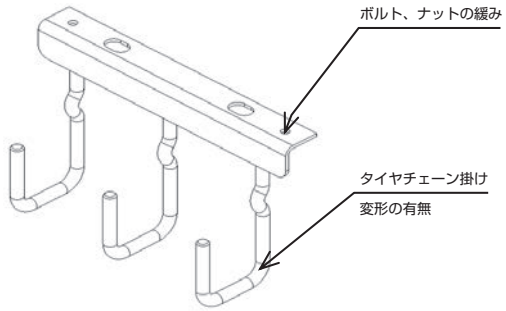
点検の実施方法
○ スペアタイヤを取り外し、次の点検を行います。
■タイヤキャリヤの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、損傷がないかを目視などにより点検します。
■タイヤキャリヤに緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、がたがないかを手で揺するなどして点検します。さらに、損傷がないかを目視などにより点検します。
■スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検します。また、タイヤキャリヤとディスク・ホイール合わせ面に摩耗や損傷がないかを目視などにより点検します。

点検箇所	スペアタイヤ
点検項目	点検方法
作動、取付状態	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



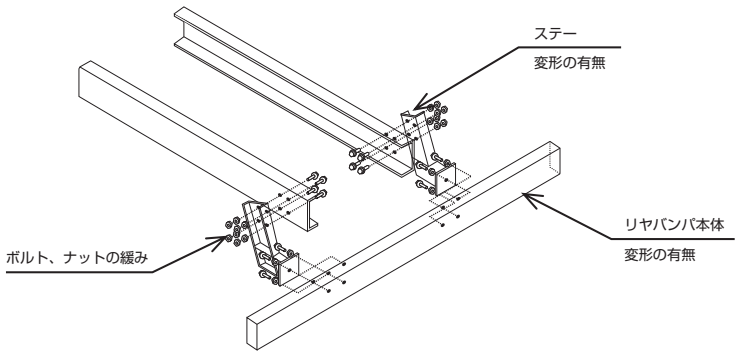
点検の実施方法
○ スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。
■タイヤキャリヤのハンドルが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルクで締め付けます。
■スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押すなどして点検します。

点検箇所	タイヤチェーン掛け
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



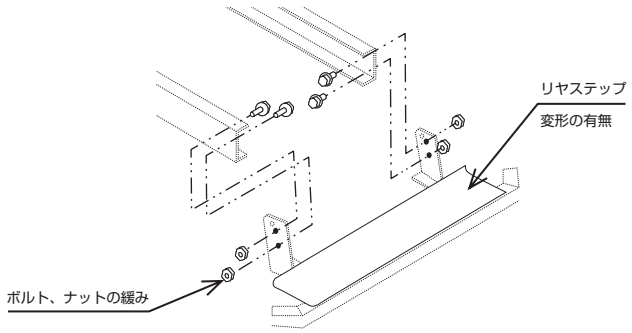
点検の実施方法
■チェーンフックやステーに、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	リヤバンパ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



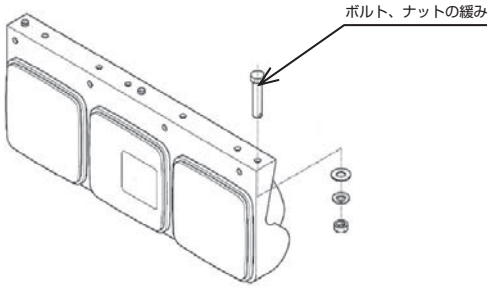
点検の実施方法
■リヤバンパ本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	リヤステップ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■リヤステップ本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	リヤ灯火器
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検

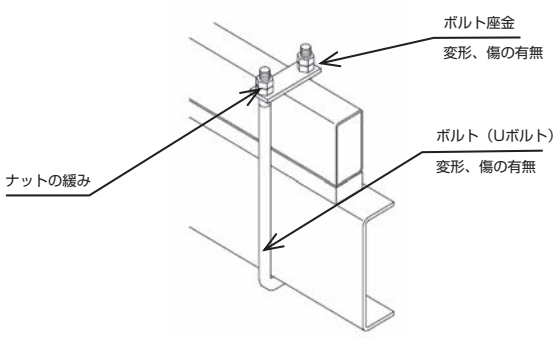


点検の実施方法

■灯火器本体やステーに、変形等の損傷がないかを点検する。

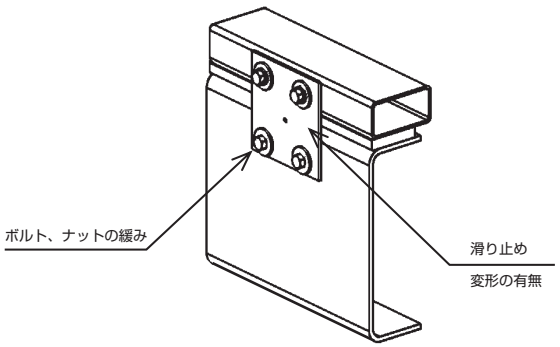
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	ボルト（Uボルト）
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



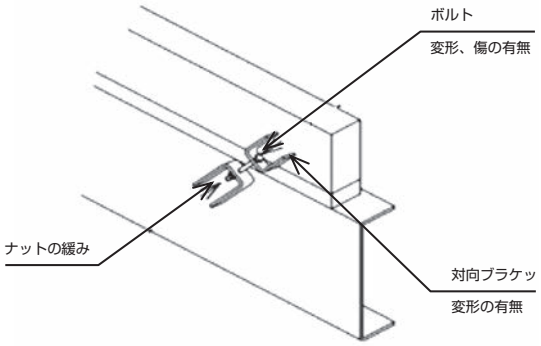
点検の実施方法
■ボルト本体やボルト座金に変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けナットに、緩みやがた、がないかを点検する。

点検箇所	滑り止め
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



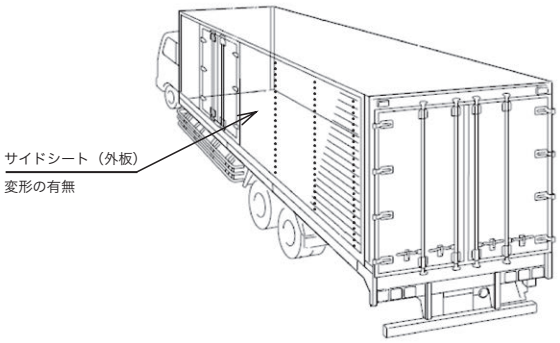
点検の実施方法
■滑り止めに、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	対向ブラケット
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



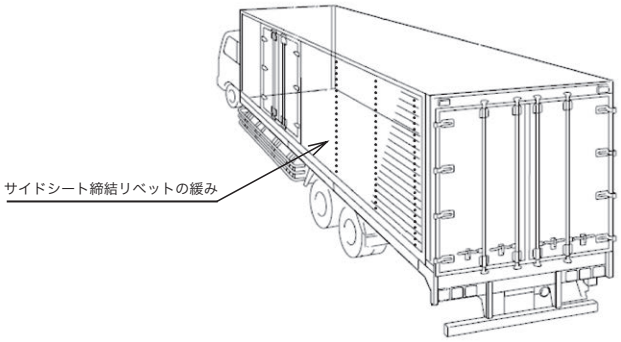
点検の実施方法
■対向ブラケットに、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	サイドシート（外板）
点検項目	変形、損傷
点検方法	目視などによる点検



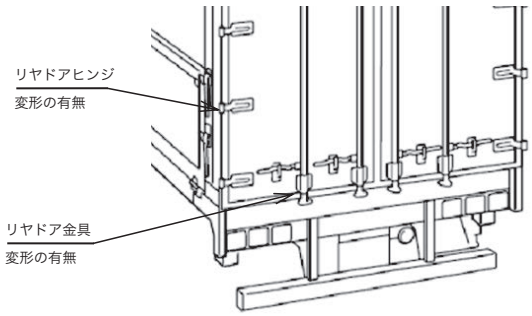
点検の実施方法
■サイドシート（外板）に、変形や損傷がないかを点検する。

点検箇所	サイドシート締結リベット
点検項目	緩み、がた、損傷
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■サイドシート（外板）の締結リベットに、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

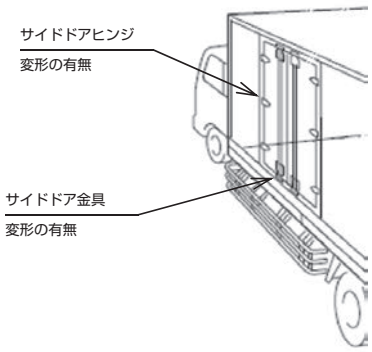
点検箇所	リヤドアヒンジ・金具
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■リヤドアヒンジや金具に、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領　【ボデー部】

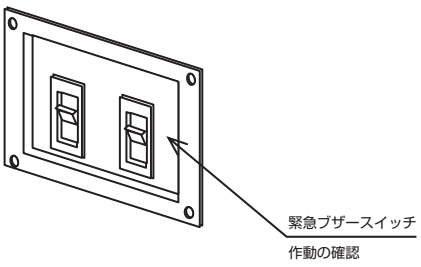
点検箇所	サイドドアヒンジ・金具
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■サイドドアヒンジや金具に、変形等の損傷がないかを点検する。
■取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領　【油圧・電気装置】

点検箇所	緊急ブザー
点検項目	作動
点検方法	聴音による点検



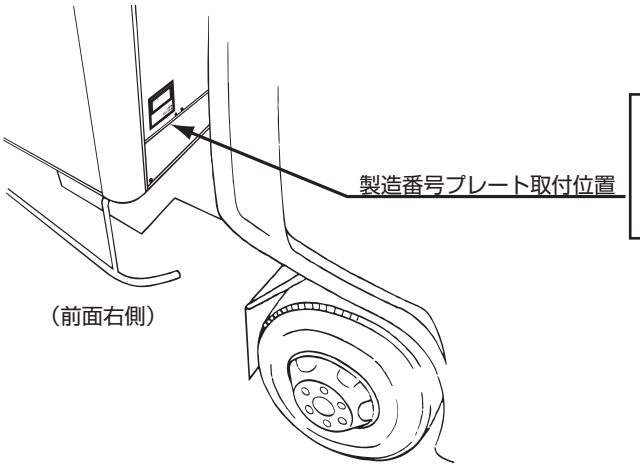
点検の実施方法
■庫内のスイッチを作動させた時、緊急ブザーが鳴ることを点検する。

※ 2005 年 1 月 1 日から施行された自動車リサイクル法によって、乗用車、商用車（キャブ付シャシ）がリサイクル法の対象になりました。弊社の主力製品であります、アルミバン、ウイングボデー、サンドイッチパネルバン等は、リサイクル法の対象外ではありますが、弊社は架装物のリサイクルに対して積極的に取り組んでおります。

◆（社）日本自動車車体工業会「環境基準適合」
トラックの架装物は、（社）日本自動車車体工業会の定める環境基準に適合した製品です。

「環境基準適合マーク」

◆解体マニュアル
弊社製トラック架装物の解体マニュアルは、弊社ホームページにて公開しております。
URL http://www.pabco.co.jp/www/env/recycle.html



製造番号プレート

BODY No.

株式会社 パブコ

修理および部品をご用命のときは、
こちらの番号をお知らせください。

（製造番号表示例）
626F6543

何でもご相談は・・・

製造番号をお確かめのうえ、最寄りの販売店または、弊社窓口にお問い合わせください。

不具合に関する詳しい情報をお知らせください。

株式会社パブコ　お問い合わせ窓口
住　所　〒 243-0402　神奈川県海老名市柏ヶ谷 456 番地
ＴＥＬ：046(233)3191　ＦＡＸ：046(235)7964

株式会社 パブコ



ALV 19.09